

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



65

2012年(平成24年)6月30日発行

CONTENTS

就任のご挨拶	学長就任のご挨拶と新入生の皆さんへ	学 長 藤田 芳一…… 3
新入生へのメッセージ	薬学教育における初年度教育について	教務部長 教授 辻坊 裕…… 4
	新しい人たちに	学生部長 教授 楠瀬 健昭…… 5
	就職におけるミスマッチを無くす、がテーマ	キャリアサポート部長 教授 天野富美夫…… 5
	図書館は「知」の広場です	図書館長 教授 高岡 昌徳…… 6
カリキュラム改正	平成24年度カリキュラム改正について	カリキュラム委員長 教授 浦田 秀仁…… 7
在学生へのメッセージ	私の学生時代と最近の学生	生薬科学研究室 教授 馬場きみ江…… 8
実務実習	平成23年度 実務実習を終えて	実務実習実施部会責任者 教授(特任) 長舩 芳和……10
CBT	平成23年度 CBT を終えて	CBT 実施部会責任者 准教授 井上 晴嗣……12
OSCE	平成23年度 OSCE を終えて	OSCE 実施部会責任者 准教授 恩田 光子……13
薬剤師国家試験	新出題基準による第 97 回薬剤師国家試験結果と今後の方針	薬剤師国家試験対策委員長 教授 藤本 陽子……14
		公開教育講座
市民講座	平成24年度市民講座 開催報告と予告	市民講座委員長 教授 松村 人志……17
就任のご挨拶	製剤設計学研究室	教授 戸塚 裕一……18
	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任) 出開 豊子……18
	環境医療学グループ	准教授 阪本 恭子……19
	薬品分析化学研究室	助手 東 剛志……19
研究室の紹介	分子構造化学研究室	……20
	生体機能解析学研究室	……21
	病態分子薬理学研究室	……22
留学・ボランティアの勧め	若いうちに異文化体験を	言語文化学グループ 准教授 スミス朋子……23
進路・就職状況	平成23年度 進路・就職状況報告	キャリアサポート課……24
私大戦略的研究基金形成支援事業	平成23年度私立大学戦略的研究基金形成支援事業活動状況	研究代表者 教授 辻坊 裕……26
国際交流基金助成事業報告	台北医学大学 楊 教授をご招待—本学で講演—歓迎会開催	生薬科学研究室 教授 馬場きみ江……27
教育研究施設の紹介	RI 研究施設	RI 研究施設管理責任者 准教授 大桃 善朗……28
学校法人決算・予算	平成23年度学校法人決算及び平成24年度学校法人予算	事務局長 秋月 延夫……29
学生相談室	学生相談室だより	学生相談室相談員 川端 康雄……32
教員研究業績	教員研究業績 (2011年)	……33
事務局だより	総務課……40	キャリアサポート課……44
	入試課……48	図書課……50
薬用植物の紹介	浜木綿 (はまゆう)	薬用植物園長 教授 田中 麗子…巻末



本学は(財)大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012(平成24)年4月1日より
2019(平成31)年3月31日



ブーゲンビリア (薬用植物園・温室)



学長就任のご挨拶と新入生の皆さんへ

学長 藤田 芳一

千熊前学長のあとを継ぎ、平成24年4月1日より学長に就任いたしました昭和46年本学卒の藤田です。皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。大阪薬科大学は、明治37年の創学以来100年を超えるなか、今日までに医療現場を始め、薬学の幅広い分野に、優れた人材を育成・輩出してきました「薬学の雄」であり、この歴史と伝統のある大阪薬科大学の学長として、「何をなすべきか」、「それをすれば何が良くなるのか」、を考えますとき、改めて責任の重大さを覚えます。

大学は、学校教育法によりますと、「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させることを目的とする」とあります。また、「その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」ともあり、これを集約しますと、「教育」、「研究」、「社会貢献」の3つが大学の基本的な役割と考えられ、どれも非常に重要な事項です。しかしながら、新薬学教育6年制の1期生が卒業した今、これからが本当の意味で、薬学・薬剤師の真価が問われる最も大切な時期にさしかかっています。したがって、本学は、特に「教育」、特に「医療教育」を最も重視していくべきだと考えています。医療の基本は、「五常の徳」の中でも最も重要な「仁」の考えに基づき、人命を尊重し、個人の尊厳を守り、熟達した専門知識・技能を通して、患者の不安・苦痛を和らげ、ケアをすることです。受け入れた学生の一人ひとりに対し、それぞれの潜在能力を開発し、丁寧でキメの細かい、良質の教育を行い、「優しい心と豊かな人間性」を持ち、「優れた教養」、「高い専門性」を備えた「時代の変化に対応できるしなやかな医療人」をできるだけ多く社会に送り出すこと、これこそが本学の使命であり、これを果たすために学生の教育に真摯に取り組んでいきたいと考えています。そのような「教育」での実績を積み重ね、それが社会から高く評価されるとともに、卒業生からは、「大阪薬科大学で学んで本当に良かった。」と言ってもらえる大学造りを目指していきたいと思っております。そのために、教職員は、本学で学ぶ学生を愛し、そして、学生の成長のために学生としっかりと向き合っていきたいと思います。教員は、可能な限り学生と向き合い、「教育の充実」に向けて時間を使ってもらいたいですし、また、事務職員には、学生に対する「支援サービスの充実」に充てるようにしてもらいたいと思っております。

もちろん、大学として本来有すべきアカデミックな

面を堅持し、充実させ、発展させることも大変重要です。「大阪薬科大学発」の新しい知の探究や開発に取り組む、社会の要請に応じていく風土と品位を醸成する大学の姿を見せなければなりません、決して近視眼的になるのではなく、しっかりと地に足をつけ将来を見据え、前進する努力が必要でしょう。

実務実習を柱とする薬学6年制、調剤報酬改定など、薬学教育や厚生行政の大幅な変革に伴い本学を取り巻く環境も大きく変わってきています現在、本大阪薬科大学も古い歴史と伝統の上に胡座をかいているわけにはいきません。全学構成員が一丸となり、本学が21世紀に生き残り、かつキラリと光る存在感のある大学としてますます発展していけますように、皆様の暖かいご協力・ご支援をお願いいたします。

平成24年度新入生の皆さん、改めて入学おめでとう。新しい生活が始まりましたが、大学生活はどうでしょうか？ 大学生活はこれまでの小学校入学以来の学校生活とは全く異なる勉強環境になります。そこでこの機会に改めて皆さんに「何を実現するために大阪薬科大学に進学しましたか？」ということを知りたいです。本学で何をしたいのかを改めて自分に問い、現在の自分の「志」を大切にしてほしいと思います。まずは自分の「志」をもつことが重要で、その「志」を持てば、後はそれに向かって前進するのみです。皆さんが持っている知恵・知識をツールとして、難題に果敢にチャレンジする姿勢をどれだけ継続できるかが、大学生活の大事なところであると思います。今始まっている大学生活は、人生にとって大切な勉強のはじまりで、自分自身もまだ知らない自分の潜在能力を最大限に引き出し、それをさらにブラッシュアップする場所であり、時間です。大学時代に思考し、行動すること、たとえ失敗を重ね挫折し、傷つくことがあっても、それを克服していくプロセス、チャレンジし続ける姿勢が、皆さんにとって、最も必要でしょう。ただ、余り深刻になりすぎる必要はありません。明るくいきましょう。これから大阪薬科大学での大学生活を大いにエンジョイしてください。そして、多くのことを学び、多くの出会いを体験し、いろいろな意味での付加価値をたくさん身につけてください。

最後に、繰り返しになりますが、新入生の皆さん、大学生活は、皆さんにとって最もかけがえのない時です。これからの大学生活においては、健康に十分留意され、楽しく、エキサイティングで、実り豊かな時を過ごされ、優れた知性・感性・品性を養い、医療人として、大きく成長されることを心より切望いたします。

薬学教育における初年度教育について

教務部長 教授 辻 坊 裕

時間が過ぎるのは早いもので、4月の入学式から3か月が経過しようとしています。新入学生の皆さんは、すっかり大学生活にも慣れ、新しい友人とともに勉強やクラブ活動などに励まれていることと思います。

4月4日のガイダンスで説明しましたように、本学の授業科目は(1)基礎教育科目、(2)基礎薬学科目、(3)応用薬学科目、(4)医療薬学科目、および(5)実習に分類されています。1年次前期に配当されている科目の多くは、基礎教育科目であり、薬学部における特徴的な科目や難解な科目もありません。

したがって、高等学校の単に延長のような気持ちで漫然と授業に臨んでいる新入学生がいるかもしれません。このような習慣は、今後の学習に大きな支障をきたす可能性がありますので、早急に改めることをお勧めします。

本学の入試方式の多様化に伴い、特に高等学校での理科(物理、化学、生物)の履修状況が均一でなく、また高等学校で履修したものの大学教育を受けるに当たり基礎学力が不足する新入学生が少なからずいることも事実です。このような不均一性および学力不足を放置しておけば、今後の学習に大きな支障をきたすことは明白です。そこで、1年次前期に「物理学入門Ⅰ」、「化学」、「化学演習」、「生物学」ならびに「基礎有機化学」などを配当しているのは、履修状況のバラツキおよび学力不足を早期に是正するためです。新入学生の皆さんは、本学が実施しています「補習・補完教育」の意味を十分に理解し、今後の学習に支障をきたさな



入学から3か月、大学生活にも慣れましたか？

いレベルまでバランスよく深く学んでいただきたいと思います。

7月13日で前期授業が終了し、7月19日から30日まで前期定期試験が予定されています。新入学生の方にとっては初めての試験であり、一抹の不安があるかもしれませんが、しかしながら、普段から授業に出席し、計画的に勉強し、授業内容を理解していれば何ら心配することはありません。薬学部は、物理、化学、生物を基盤とする総合科学であり、普段からコツコツと地道に知識を積み上げていくことが何よりも肝要です。また、大学では教科書に記載されている「正解」を単に暗記することではなく、その中に含まれる「問題点」を見つけ、自らの力で解決する力を身につけてほしいと思います。前期定期試験までじっくりと腰を落ち着けて勉強に取り組んでください。

新入学生の皆さんの健闘を期待しております。



朝8時すぎ、高槻市営バスに乗って大学へ(JR 摂津富田駅前)



午後5時、友達と一緒に帰ります(大阪薬科大学バス停)

新しい人たちに

学生部長 教授 楠瀬 健昭

春になると、大学は新しい人たちを迎え、新しくなる。もちろん、日々大学は変化する。しかし、古い人たちが旅立ち、新しい人たちを迎える、別れと出会いの時に、日々の変化とは異なる、決定的な変化の時を迎える。

これからの6年間、良き伝統は守りつつ、悪しき伝統とは決別し、この学園とともに学ぶ諸君の手で、新たな伝統を築いていってもらいたい。

さて、本学では、2012年4月1日をもって、大学近隣も含めて学内全面禁煙となった。事の成否は諸君にかかっている。2年間の猶予期間、すなわち、3カ所の喫煙所を設け、分煙とする期間を経たが、在学生諸君がすべて禁煙に至ったわけではない。

ところが、新入生諸君は、ほとんど100%近くが煙草を吸わないはずである。これからも煙草を覚えるのではなく、煙草の害を十分に認識し、やがては禁煙指導する立場になることを自覚してほしい。これからの新入生もそれに倣えば、6年後には、この学園は実質的にもSmoke-free Campusとなる。

教育は家庭に始まる。マナーやモラル、エシックスの

問題は、ただ学生諸君に注意を促しても身につくものではなく、長い年月をかけて身についたものである。それでも、諸君に訴える。大阪薬科大学の学生として、日々恥ずかしくない行動を取ってもらいたい。自分のことだけではなく、自分の親しい人たちだけではなく、広く自分のまわりに、社会に、世界に目を向けてほしい。

たとえば、バス乗車のマナーについて、ほとんどの人は、きちんと整列乗車し、乗車中も本を読むなど静かに過ごし、お年寄りが乗車すれば、優先座席でなくても席を譲る。ところが、一部不心得な人がいると、たちまち、医療人となるべき大阪薬科大学の学生のモラルはどうなっているのか、というお叱りを受けることになる。

今、世界はいろいろな意味で境界のない世界になっていると思うが、公共空間と私的空間との区別をしてほしい。

バスの車内で、いつも友達とおしゃべりに夢中になりがちなのは、一度話をやめて、耳を澄ませてほしい。もしかしたら、隣で音楽を聴いている人のイヤホンから漏れてくる音が、ひどく気になるかも知れない。

就職におけるミスマッチを無くす、ガテーマ



平成24年度よりキャリアサポート部長を拝命いたしました、天野富美夫です。部長就任に当たり、一言ご挨拶を述べさせて戴きます。

私が本学に着任してよりの10年余の間に、薬学をめぐる教育および社会環境は大きく変化しました。その中で、大阪薬科大学は多くの優れた卒業生を輩出してきました。この間、先代の各部長先生方ならびに渡辺前課長と錦野現課長のご尽力により、本学の就職実績は大変素晴らしいものになり、ほぼすべての学生が就職・進学できる状態になりました。これを踏まえ、私は次の活動を行うことにより、さらに多くの満足と成果が得られるように努力したいと思います。

まず、「就職におけるミスマッチを無くす」をテーマに、学生に対するガイダンス等の指導を早期より行

キャリアサポート部長 教授 天野 富美夫

い、各人の能力を最大限発揮でき、適性を活かす職種・職場を見出せるように指導を行います。次に、「社会に対する感性を備え、自己研鑽する努力を促す」指導を行います。学生が何となく、ではなく、就職を含む将来の活躍に対して明確な意思と自覚を持つことができるように、機会あるごとに、自己の能力に対する「気づき」と「向上心」を保つことができるように指導します。さらに、卒後のキャリア形成に関連して、同窓会の皆様方や諸先生方のご協力を戴きながら、より充実したものにしたいと考えています。

以上掲げました目標と抱負のどれ一つとして、私一人で推進できるものではありません。達成するためには、諸先生方と全職員の皆様のご協力、そして何よりも学生諸君の意思と意欲が欠かせません。

どうぞ、皆様、これからも継続したご支援を戴きたく、宜しく願い申し上げます。

図書館は「知」の広場です

図書館長 教授 高岡 昌徳

新入学生の皆さん、大学に入学してから幸運の女神に出会いましたか？ 同じ目標を持つ新しい友人や先輩たちとさりげない話をしているときや、気ままに本を読んでいるときに、思いがけず新しい言葉に出会って心に響くことがあります。このような感動が生まれる場の一つとして、皆さんに図書館を利用して欲しいと思います。

図書館の入口でICカード（学生証）をセンサーにタッチさせると「知」のゲートが開きます。その向こうには沢山の本があります。

蔵書は和・洋合わせて約91,000冊、学術和洋雑誌約640種類、視聴覚資料約1,900本、薬学・自然科学系図書や教養図書とともに、一般の小説や雑誌も所蔵されています。最近では、パソコンだけでなく携帯電話でも蔵書検索を行うことが可能になったため、いつでもどこでも、本の情報を得ることができます。

図書館に所蔵されていれば、館内で一人静かに読むのも悪くありません。また、図書の貸出期間は2週間（雑誌は3日間、視聴覚資料は1週間）ですので、受付カウンターで借りて自宅で読むのもいいでしょう。でも、その本が気に入って手放せないと思ったらブックセンターで購入してください。



「知」のゲート

← ICカード(学生証)をセンサーにタッチさせてください。

9万を超す蔵書があなたを待っています。貸出可能です。検索もPC・携帯等で簡単にできるようになりました。



岩波新書刊・大野 晋 著
「日本語練習帳」(表紙)

私から皆さんにオススメしたい本があります。「大野晋著・日本語練習帳」という岩波新書です。蔵書検索を行うと、本学の図書館にも所蔵されていることがわかります。図書館の第2閲覧室の書棚にあり、貸出も可能となっています。図書の登録番号をメモして探せば、すぐに見つかるはずです。「思う」と「考える」

の違いや、「は」と「が」の違いなどについて書かれています。読み始めると、それらの違いがわかり、使い方がわかります。

読み終わると、それ以降、本の中で出会った言葉の使い方を間違えることは少なくなります。また、他の言葉に対しても敏感になります。言葉の魅力に触れて、皆さんに価値ある変化をもたらすでしょう。

最後に、大学に入学して教科書の値段の高さに驚いたと思います。シラバス「授業の内容」には各科目の教科書と参考書について記載されていますが、それらの参考書を全て購入することは不可能に近いと思います。

本学では図書館4階に「教科書・参考書コーナー」を設けていますので、購入できそうもない参考書はここで読んでみてください。教科書を読んで理解できなかった内容がわかりやすく書かれていることもあります。大いに利用してください。



図書館4階にある「教科書・参考書コーナー」

平成 24 年度カリキュラム改正について

カリキュラム委員長 教授 浦田 秀仁

平成 16 年の学校教育法の一部改正により、平成 18 年 4 月より薬学 6 年制がスタートすることになり、本学は石田カリキュラム委員長（当時）を中心に日本薬学会モデルコア・カリキュラムに準拠した 6 年制カリキュラムを編成し、これに基づいた教育を 6 年間行ってきました。現行 6 年制カリキュラムの評価は、卒業生の進路状況、薬剤師国家試験結果の詳細な解析などを含めた総合的・多角的な検証を待たねばなりません。現時点では教育プログラムとして特に大きな問題はなく良好に機能していると考えています。しかし、6 年制が完成した昨年度までにいくつかの修正すべき点が浮き彫りになってきたことも事実で、今年度が 6 年制カリキュラムの改正が認められる最初の機会であることから、カリキュラム委員会ではこれに合わせたカリキュラム修正の検討を行って来ました。その結果、現行カリキュラムをマイナーチェンジした新カリキュラムが平成 24 年度入学生より適用されることになりました。以下が今回のカリキュラム改正の要点です。

薬学 6 年制への移行に伴い、4 年次に薬学共用試験として OSCE (Objective Structured Clinical Examination) および CBT (Computer Based Testing) が実施されることになりましたが、これらは国家資格を持たずに病院および薬局実務実習に臨む 5 年次学生の学力を保証するための全国共通の試験です。このうち CBT は薬学専門科目の学習到達度を基礎から臨床まで幅広く測るものですが、現行カリキュラムでは CBT にも必要な臨床系科目の一部が CBT までに完結しない年次配当になっていたため、この点を修正し、より系統的な講義ができるよう配慮しました。

病院および薬局実務実習は原則的に 1 年を 3 期に分けて実施されていますが、本学は現行カリキュラムの 5 年次科目配当の関係で全員が 2 期および 3 期の両期に実務実習に出ています。しかし、5 年次学生全員が 3 期（1 月～3 月）に実務実習を履修するシステムは、企業への就職を希望する学生にとっては大きな負担になっています。このため 5 年次科目配当の見直しを行い、新カリキュラムでは、実務実習は 1～3 期すべてを利用し、学生の進路希望を聞きながら実務実習の履修時期の割り当てを行っていく考えです。

薬学 6 年制教育では、より臨床に即した薬剤師の養成が求められているのは周知のことですが、カリキュラム上「医療人としての教育を体系的に行うこと」が

求められるようになり、この点で現行カリキュラムに修正を加える必要性が出てきました。そこで、医療人教育に関わる科目の再編と新規科目の新設を行い「医療総合人間学 1～7」として医療におけるヒューマンズ教育を総合的・体系的に行う体制を整備しました。この医療人教育の重点化に伴い、第 2 外国語教育は現行の「ドイツ語／フランス語 1～4」のうち、「ドイツ語／フランス語 3 および 4」を廃止して第 2 外国語教育を教養教育として必要最小限度の科目数に限定しました。一方、英語教育の重要性はいうまでもなく、より実践的な英語能力を養うことを目的とした「実践ビジネス英語」を 4 年次後期から 5 年次にかけて自由選択科目として新設しました。

1 年次前期には入学直後の学生に医療を意識してもらう目的で「人体の構造と機能」を新設し、「早期体験学習」などとともに学生のモチベーションの発揚と臨床教育へのスムーズな移行に配慮しました。また、入学生の学力の不均一を解消する目的で設けている「化学」、「基礎細胞生物学」、「基礎物理学」などの基礎教育科目は、その位置付けをより明確にするため内容の再検討や科目名の変更を行いました。

学生の負担軽減の観点から、現行カリキュラムの「調剤学実習」と「臨床導入実習」の内容を統合することで「調剤学実習」を廃止し、また、「生化学」および「物理化学」関連科目は開講時期を半期早め、2 年次後期までに終えることで 3 年次カリキュラムの過密状態を若干ですが解消しました。

カリキュラム委員会に残された喫緊の課題として、薬学科（6 年制）とともに併設している薬科学科（4 年制）のカリキュラムの見直しがあります。薬科学科については当初の方針の再検討が必要な状況にあり、全学的な議論を早急に行い、その方針に基づいてカリキュラムの見直しに着手したいと考えています。

今回のカリキュラム改正は現行カリキュラムの一部を修正したマイナーチェンジに過ぎません。昨今、大学とりわけ 6 年制を実現した薬系大学を取り巻く社会の目は厳しく、外部評価機関の評価に耐えうる、社会から期待される、何より本学学生から信頼される大阪薬科大学であるよう常に PDCA サイクル (Plan「計画」、Do「実行」、Check「点検」、Act「改善」) を回していく必要があります。今回のカリキュラム改正も、その 1 サイクルに過ぎないと考えています。

私の学生時代と最近の学生

生薬科学研究室 教授 馬場 きみ江



私は来年の3月をもって退職しますが、学生時代を入れると半世紀余りを本学で過ごしてきました。今回学生時代を振り返り、何か現在の学生の参考になればと思いこの原稿を書くことにしました。

私が本学に入学し、さらに教職員として奉職してきた長い間、本学は大阪の南、松原市高見ノ里にありました。従って、現在の阿武山よりも、高見ノ里に多くの思い出が残っています。

当時の入学試験は定員が180名で男女それぞれが90名でした。従って薬大入学希望の多い女子は大変不利だったことを覚えています。また、現在のように多くの薬科大学が無かったため、地方出身者が過半数を占めていました。大学にはそのために女子寮があり、大半の女子学生がそこに住んでいました。地方出身者の中でも女子は特に優秀な人が多く、町を挙げて出てきた人もいたようです。

授業が始まる前には早くから席取りが始まり、前列はほとんどその人達で埋まっていました。結束も堅く、現在でも寮生だった人の同窓会が、クラス全体のとは別に毎年行われているそうです。また、県人会というのがあり、先輩後輩のつながりも強かったようです。

電車通学生も当時としては、少しダサイ格好だったためでしょうか、他大学生とすぐに区別できました。現在試験の時には学生証を出しますが、当時は授業ごとに木製の番号札を一方の通路側に並べ、事務職員の方が廻って逐一出席を取っていました。学生の名前をほとんど覚えておられたのには感心しました。従って



第15期生卒業アルバム「くすし」から

私の原点「高見ノ里」の学舎

代返などずるいことはできませんでした。

教わった先生にはとても個性的な方が多く、たとえばドイツ語の先生は顔やしぐさがヒットラーに似ておられ、有機合成の先生はできの悪い学生には「-∞」の点を付けられました。顔に大きなほくろのある調剤学の先生はプンクトのあだ名がありました。

また当時は関西薬学生連盟(関薬連)という組織があり毎年7月下旬～8月にかけて、当番校が主催する総



徳島市で開催された第20回関西薬学生連盟総合大会 ポスター(左)とコーラス部の熱唱(右)



当時の授業風景(左)とクンプト先生(上)

合体育大会が行われていました。その際には学長による壮行会が行われましたが、大会に出場するクラブ部員達は絶対に優勝しようという意気込みで臨みました。コーラス部では会館を借りてオペラなどの公演もしましたが、私も出場し思い出に残っています。

その頃は前期試験が9月に入って行われていましたので、7月中はクラブ活動に思う存分専念できました。その点、現在の学生の皆さんは授業、実習に追われる毎日で、あまり時間が無くて大変気の毒だと思っています。

前後期試験は現在とは違って毎日2科目ずつになっていましたので、随分早くから準備を始めないと、点が採れず大変でした。しかしその分だけ短期間で終わり、良かったと思います。また、現在は各科目毎に前後期別に採点評価が行われていますが、当時は1年間通しの科目は前後期の平均点で評価されていましたので、前期の点が悪くても後期で頑張れば挽回できました。再試験は現在と同じようにはありましたが、これを受験するのは大変恥ずかしいことだと思っていました。同級生の中で留年者が出たという記憶はありません。

当時は再試験はあえて授業の裏番組にセットされており、現在のように特別に日程を組んだりはしていませんでした。そのために本来の授業・実習日数は現在より多く取ることができましたし、時間的にゆとりがあったように思います。

特別実習制度ができたのは私が4年生の時からです。それ以前にはクラブで化学班というのがあり、希望すれば好きな研究室に2～3年生の頃から所属できる仕

組みになっていました。上級生が「お部屋」に入りたいと言っているのを良く耳にしましたが、その意味がよくわかりませんでした。

卒業前には卒業試験(2回)があり、これに合格しないと卒業や国家試験の受験もできなかったのは現在の方式と同じですが、国家試験の準備のための総合演習などはありませんでした。それでも国家試験の合格率はいつも全国1位だったと思います。

さらに、当時は教員養成課程の制度(生物、化学、物理、地学、保健体育の先生の資格が取れる)があり、毎年夏休みに集中講義を受け、教育実習の実技で高等学校にも出かけました。また、将来のことを考えて色々とアルバイトを経験し、薬局の派遣店員、衛生研究所のルーチン的な仕事の手伝い等を行いました。

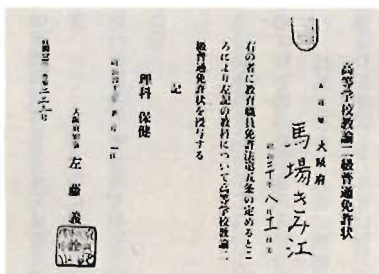
病院薬剤師の道も考えましたが、結局自分にはこれらの仕事は合わないと感じました。同じ操作を繰り返す行い仕事は私には向いていないと感じたからです。

当時から生薬、天然物化学に非常に興味があり、結局大学に助手として残りましたが、これが一生を通じての仕事になりました。現在は就職活動のためにキャリアサポート課で懇切丁寧な指導が行われていますが、最後は自分が決めるという強い意志だけは持っていてほしいと思います。自分で決めたことは多少の困難があっても絶対に頑張り通せる、そう信じているからです。恵まれた環境のもとで勉学その他にチャレンジできるのは、一生のうち学生時代しかありません。

私の学生時代と今の学生の皆さんとは本質的に素質、能力の点ではちっとも変わっていないと信じていますが、1つだけお願いがあります。人としての礼儀、思いやりの精神、これだけはいつも念頭に置いて行動してほしいのです。

現在の学生の皆さんの少しでもお役に立てることになればと思いい筆を執りました。

当時「教職課程」がありました。下は「免許状」です。



教職課程授業風景 (後にこの課程は休止されました)

平成 23 年度実務実習を終えて

実務実習実施部会責任者 教授(特任) 長船 芳和

1. 担当教員として

平成 23 年度の実務実習では、学生 266 名の皆さん全員が怪我や病気入院もなく無事、元気で実習を終えました。他大学では交通事故で実習を中断せざるを得なかった学生のことを耳にすると、本当に良かったと思っています。

学生は本学で学んできたことを医療現場でどの程度活用できたか、どんな面が不足していたか、医療現場での実習が如何に重要か、また、社会人としての立ち振る舞いなど個々にいろいろと経験し、今後役に立つことを身に付けられたのではないのでしょうか。この実習では、知識・技能・態度を学びます。

技能ですが、実際に実習に行く時期が 5 年次生になっても暫くしてとなりますと、4 年次で学んだ調剤演習の手技を忘れていた学生も当然いるでしょう。実習前に再確認をすることも大事です。

また態度は相手があって初めて分ったり、相手の反応を知ることができます。何気ない言葉と聞いてもその取られかたは様々です。家では勉強ができません。慣れない施設で困る場合もあるでしょう。その中でどう対処法を見つけていくかを考える、非常に大事な体験です。

気心の知れた友人同士でなく、人間関係を作る社会人に向けてのいい体験ができる機会でもあります。辛いことも当然あるでしょう。でも一回り大きくなって戻って来て欲しいと願っています。

指導薬剤師の評価表には、実習態度の項目でマナー、積極性・探求心、協調性、医療人となるための心構え、社会的常識があり、学生はいつも見られていると 부탁드립니다。

2. 本学の実習

本学は 5 年次前期に必修科目があったため、平成 23 年度も秋からのⅡ期・Ⅲ期に分けての実習となりました。

学生 266 名は薬局 231、病院 143 施設で実習を行いました。すべて近畿 2 府 4 県に収まりました。

なお、実習施設は薬学教育協議会病院・薬局近畿地区調整機構で最終的に決められるため、学生の希望を聞くことはありません。

ただ、調整を行う前に住所変更をした学生の中には、

元の場所近くの施設になったケースも出てきました。このことは事前に伝えていますが、住所変更時には必ず届けるようにしてください。

実習施設決定後の変更は非常に難しいか、不能です。また、近畿圏外から入学した学生の中には本籍地に近い施設で実習を希望することもあり、いわゆる「ふるさと実習」に近い将来、より必要になると思っています。

3. 25年度の実習への新たな取り組み

上述のように、本学ではⅠ期に実習ができません。Ⅲ期が就職活動時期で、数日以上休暇する学生が多く出て、施設からは実習が滞る、予定が狂うなど、電話や教員訪問時に、大学は就活に対してどのような指導をしているのか、実習時間が不足するが大学は適切に対応を取っているのかなど、中には、今後就活をする学生は遠慮したい等の厳しい苦情もありました。このことは当初より経験したことで、私どもは大学に改善を求めています。

そして時間がかかりましたが、ようやく平成 25 年度から本学もⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期で実習を行うことになりました。従って企業等に就職したい学生を把握し、就活時期と実習時期を考慮すれば実習に専念できる環境になってきたと言えます。

4. 教員の訪問

実習が問題なく遂行されるよう教員の施設訪問を最大 4 回実施しています。本学の学生が過去に実習をしていない施設へは実習が始まるほぼ一か月前、実習が始まって一週間以降(1 回目)および実習終了前(3 回目)は特任教員が担当し、実習の間では学生の所属する研究室教員が訪問します(2 回目)。

訪問は実習の進捗状況、学生の悩み、抱えている問題を確認することを主な目的にしていますが、早期に把握できなかった点があり大いに反省するところです。私どもは 1 人平均 40 施設を担当しましたので時間的、また施設の場所的・実習時間の問題があります。折角訪問しても、例えば複数学生が実習している施設では、指導薬剤師と病棟にいたり、全員を呼んでもらえないことも多く経験しました。学生とゆっくり話ができるよう取り組む必要性は感じています。せめて顔だけでもと思ったことが何度もありました。

昨年から実習記録は富士ゼロックスシステムを採用しました。学生、指導薬剤師、教員でメール交換できます。パスワードを全員持っていますので、必要とする人と困ったことなども伝えることもできます。実習中の内容が教員にも把握でき、学生の情報収集について大きく改善されつつあります。

5. 教員と学生の意見

事前に行った実務実習ガイダンスでは、教員から過去の実習で問題になった事例を伝えていきますので、同じようなことは繰り返さず、ぜひ守って欲しいと実感しています。多くの場合、マナーや態度が指導薬剤師

からよく指摘される事項です。

一方、学生の皆さんからも報告書の中で意見・感想が述べられています。次に紹介しますので、特に5年次生は目を通してください。誌面の都合上、ごく一部です。

実習を終えた学生が、廊下で実習は良かったなどと話してくれるときがあります。また、挨拶が自然に出るようになっていきます。私にはホットする心地よいときです。

平成24年度はもう3年目です。そろそろ悪い点は無くし、お互いより良い実習にしたいですね。

学生の感想・意見（報告書から抜粋）

●悪かった点（病院）

- ・病棟業務が少なかったのは残念だった。
- ・多くの業務があり、実習に余裕がなかった。
- ・レポートが多く実習どころでなかった。
- ・指導薬剤師が交代するので、質問等をする機会を無くした。
- ・多くの日常業務を処理するのが精一杯だった。
- ・調剤が多忙でほとんど病棟に行けなかった。

●悪かった点（薬局）

- ・同じような処方が多く、服薬指導が面白くなかった。
- ・服薬指導の範囲が限られていた。多くの患者に話をしたかった。
- ・患者が少なく、実習が足りない気がした。
- ・在宅を学べたのは良かったが、薬の配達で終わった感がする。
- ・服薬指導ができる薬剤師が少ないため、いろいろな患者に指導ができなかった。
- ・患者が少ないため、一包化や水薬の調剤が少なく、もう少し手技を上達したかった。
- ・同じことの繰り返しで、実習にならない。もっといろいろしてみたかった。

◎良かった点（病院）

- ・部内の報告会が多く、発表する力がついた。
- ・チーム医療で薬剤師が他職種から期待されていることを実感できた。
- ・病態を知ることの大切さを実感できた。
- ・病棟薬剤師の知識の豊富さ、姿勢を知った。
- ・数名しか行けない大病院で多くを学べた。

- ・病院の業務内容を実際、自分の目で見て確認できた。

◎良かった点（薬局）

- ・言葉づかいなど、患者を不安にしない指導の仕方を教わった。
- ・患者個々に適した服薬指導を体験できた。
- ・検査値がないのに患者の情報をうまく把握していて感激した。
- ・折に触れ勉強したが、自分の勉強が患者に役立つことが実感できた。
- ・薬局では添付文書情報だけでは患者に満足してもらえない。総合的な知識が要ることが分った。
- ・病気の治療ばかりでなく、予防にも関与していることを知った。

★全般にわたって

- ・患者には病態ごとに気を付けるなど、現場の知識を知った。
- ・挨拶やマナーが当たり前でかつ、大切と知った。
- ・マンツーマンである服薬指導の難しさを学んだ。
- ・座学が多い。現場のことをもっと知りたかった。
- ・薬だけの知識では通用しないことが分った。
- ・自分の進路を考える良い機会になった。
- ・パワハラ、アカハラを感じる指導薬剤師がいた。
- ・慣れない環境で忙しかったが、その分忍耐力がつき達成感もあった。
- ・薬や病気、健康管理の知識をもっと勉強してから実習に臨むべきだった。
- ・薬局では患者との信頼と人間関係が不可欠と感じた。
- ・病院と薬局では業務量・内容が違うため、実習期間に違いがあってもいいと感じた。

平成23年度CBTを終えて

平成23年12月14～16日の3日間、本学のD棟コンピューター演習室とC棟情報科学演習室において平成23年度CBT本試験が行われました。幸い欠席者もなく、薬学科4年次生315名、および大学院薬科学専攻M2生8名の合計323名が受験し、全員合格することができました。

CBTでは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して出題された五者択一問題310問がゾーン1～3の3ゾーン（各ゾーン2時間ずつ）に分けられ、受験者はパソコンを用いて解答していきます。186問以上の正解（60%以上の正答率）で合格となり、OSCEの合格と併せて、薬学共用試験の合格となります。薬学共用試験の合格をもって、学生の基礎的知識や技能・



態度が基準に達していることが保証され、次年度に長期実務実習を履修することが可能となります。

CBT本試験で

CBT実施部会責任者 准教授 井上 晴嗣

不合格になった場合には、2月末頃に行われるCBT再試験で再挑戦することができます。CBTが導入されて3年経ちました



が、本学では何れも本試験で全員が合格し、再試験は一度も行われたことはありません。ちなみに、今年度のCBT本試験は12月13・14日の2日間、D棟コンピューター演習室と自習室を使って行われる予定です。

なお、平成23年度はCBT本試験終了後にCBT受験者アンケートを実施しました。アンケートではCBT本試験の実施時期や本学のCBT対策についての質問のほかに、これからCBTを受験する後輩へのコメント・アドバイスを書きいただきましたので、以下に抜粋して紹介します。今年度CBTを受験する諸君はこれらのアドバイスを参考にして、本学でのCBT再試験受験者第1号とならないよう頑張ってくださいと思います。

CBT受験者のコメント・アドバイス

- 今までのことを総復習するいい機会だと思う。理解を深めることができる。定期試験での努力が反映されるので普段からコツコツ頑張ることをオススメする (A.S.)。
- CBT本試験は模試よりも難しかったです。問題集にもない問題も出題されていました。点数の取れる問題をミスなく確実に取って合格してください (S.I.)。
- とにかくコアカリをしっかりとやって、友人と問題の出し合いをしてください。そうすれば大丈夫です (T.I.)。
- 学校からの具体的な対策がなくても夏頃から余裕をもって準備してほしいと思います (A.M.)。
- 基本問題が出ると言ってもやはり、いつもの定期試験の勉強が元になっているので、理解しているところは勉強しやすかったです。再試や持ち越しで一生懸命勉強したことは生きると思うので、しっかりとやるといいと思います (K.O.)。
- 勉強量は嘘をつかないと思うので、絶対に時間はかけるべきだと思います！（ペコちゃん）。
- コアカリを何回も行うこと。模試の復習をしっかりと行うこと。出来るだけ早い段階で1度CBTに手をつけること (M.T.)。
- 普段の講義からしっかりときいて定期試験をしっかりと勉強しておくことが、4年次生のCBTの勉強をする上で非常にしっかりとした基礎となって役立つので、普段から少しずつ勉強しておくことが大事だと感じました (T.D.)。
- 早くから勉強の方がいいです。コアカリもいっぱいあって大変だけど、何回も解けば必ず実力はつきます (匿名)。

- たくさん問題を解いた方がいいと思います (H.O.)。
- 模試のやり直しをしっかりと、コアカリを何度も解くことが重要だと思います。ランダム出題なので、苦手な問題が何度も出てきてしまうこともあるので、苦手を残さないことも忘れずに (S.K.)。
- 2ヶ月前からじゃ間に合わないよ (Y.H.)。
- ZONE1・2は授業に合わせず、自分のペースで進めたほうがいい (S.Y.)。
- やらなくては落ちる。勉強した分だけ点が取れるのがCBT。…と、私は思っています。周りの意見や勉強法を参考にするのもいいですが、自分に合った勉強法で挑みましょう (E.M.)。
- 先輩の「全然余裕」ってことは信じないほうが… (S.O.)。
- あまり、難しいことは聞かれないので、「やれば上がる」を実感できます。ただ、成果が出るまで、ちょうど3ヶ月ほどかかります。地獄の3ヶ月を乗り切ると、一気にやってみて楽しくなります♡ (R.H.)。
- CBTの勉強はCBTのためだけではなくこれまでできていなかったことや忘れていたことを思い出させるいい機会です。その時間を大切にがんばって勉強してください (匿名)。
- 今回勉強していく中で基礎がどれだけ大事が分かりました。普段授業でバラバラに習っていることをつなぎ合わせていくことでさらに理解しやすくなります。勉強したらした分だけ点数も伸びていきます。頑張ってください！ (H.A.)。

平成23年度 OSCE を終えて

OSCE 実施部会責任者 准教授 恩田 光子

平成23年度共用試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の実施に際しましては、多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。簡単ではございますが、実施状況を報告いたします。

表1には本試験、表2には再試験実施の概要についてまとめました。本試験において、学生は5つの領域からの合計6つの課題(表1最下欄参照)を受験しました(各課題の試験実施時間は5分で移動時間等を含めると9分)。学生の試技は、各レーンにつき2名の評価者が担当し、定められた評価表にもとづき評価(細目評価と概略評価)を行いました(同時に受験する48名の学生に対し、96名の評価者が評価)。また、6課題のうち、「病棟での初回面談」および「疑義照会」

表1 平成23年度 OSCE 本試験実施概要

実施日	平成23年12月24日(土)		
実施時間	7:50~18:00 (試験9:30~12:31、13:30~17:33)		
試験場所	D棟2階		
受験学生	4年次生 323名		
評価者	学内(大阪薬科大学)	46名	
	大学	51名	
	学外	病院	27名
	薬局	19名	
模擬患者・模擬医師 スタッフ数	28名・24名 86名		
試験領域(課題)	患者・薬局者応対(病棟での初回面談)、 薬剤の調製(散剤調剤および水剤調剤)、 調剤鑑査(調剤薬鑑査)、無菌操作の実践 (注射剤混合)、情報の提供(疑義照会)		

につきましては、それぞれ模擬患者と模擬医師が必要であり、本学 SP 会、神戸 SP 研究会、本学教職員の皆様にご協力いただきました。

OSCE 終了後(本試験、再試験ともに)、当日来校されたモニターから、問題なく実施されたとの総括をいただき、無事終了いたしました。各ステーション責任者等の先生方からいただきましたご意見は、今年度の OSCE に反映させていただきたく存じます。

OSCE の結果につきましては表3に示しますが、受験生 323 名のうち、319 名が本試験にて、4 名が再試験にて合格となりました。今年度はさらに受験生の増加が見込まれております。どうぞよろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

表2 平成23年度 OSCE 再試験実施概要

実施日	平成24年2月25日(土)		
実施時間	10:00~11:00		
試験場所	D棟2階		
受験学生	4年次生 4名		
評価者	学内(大阪薬科大学)	大学	1名
	学外	病院	0名
		薬局	0名
			1名
模擬患者・模擬医師 スタッフ数	該当せず 2名		

表3 平成23年度 OSCE 合格結果

	実施	受験者数	合格者数	合格基準
本試験	平成23年 12月24日(土)	323名	319名	細目評価70%以上
再試験	平成24年 2月25日(土)	4名	4名	概略評価5以上

OSCE 体験学生からのコメント

◆これまでは頭で覚える作業が多く、病院・薬局実習に対して不安が多くありましたが、共に励む友人や先生方の熱心な指導のおかげで様々なスキルを身につけることができ、不安も無く自信をもって OSCE に臨むことができました。この経験を今後の学びに活かし、薬学生として自覚を持って行動していきたいと思えます。

(5年次生 大久保 賢人)

◆『臨床導入実習』や『薬学総合演習2』を受けるまでは不安でしかありませんでしたが、先生方に評価されるポイントなどを丁寧に教えていただいたので、不安はなくなり、安心して OSCE を受験することができました。ここで得た知識が、後期から始まる実務実習で活かせるよう積極的に行動したいと思えます。

(5年次生 小田 智晴)

◆臨床導入実習や演習、OSCE 受験によって、これまで経験できなかった自分のコミュニケーションに関する側面を垣間見ることができました。話し方やスピードだけでなく、話の切り口などにも注意しながら、「上手だな。」

と思う人の話を聴くだけでも勉強になりました。

(5年次生 内本 英樹)

◆OSCE を経験することで、今まで漠然としていた薬局や病院での薬剤師業務の一部を学ぶことができました。外部の先生方がおられるということで緊張しましたが、この経験を活かして実務実習に臨みたいと思えます。

(5年次生 清水 佑美)

◆OSCE を通して手技や患者面談等を体験することによって、現場をイメージしやすくなりました。また、指導の合間に先生方の実体験談を聞くことができ、薬剤師のやりがいに対し意識を持つようになったと感じます。

(5年次生 岩崎 未来)

◆『臨床導入実習』によって、技能面で基本的なことを教わると共に、グループディスカッションを通して薬剤師としての姿勢について深く考えることができました。OSCE で基本的なことを学んでおくことで、病院実習や薬局実習に臨みやすくなると思えました。

(5年次生 加藤 紗希)

新出題基準による第97回薬剤師国家試験結果と今後の方針

薬剤師国家試験対策委員長 教授 藤本 陽子

平成18年から新たな薬学教育課程として6年制課程が導入されるとともに、6年制課程卒業に必要な実務実習などのすべての単位を修めた者に薬剤師国家試験の受験資格が与えられることになりました。そして今年3月3日・4日に、この新薬剤師国家試験が初めて実施されました(第97回薬剤師国家試験)。この新薬剤師国家試験初回の本学成績、そして新薬剤師国家試験対策の今後の方針について記載します。

第97回薬剤師国家試験における本学の成績を示す前に、まず新薬剤師国家試験の実施概要を説明しておく必要があります(表1参照)。

- (1) 問題数は345問であり、旧薬剤師国家試験(240問)に比べて105問増加しました。
- (2) 問題は必須問題(90問)及び一般問題(255問)に区分され、一般問題についてはさらに薬学理論問題(105問)及び薬学実践問題(150問)に区分されました。
- (3) 必須問題の科目は、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」の7科目となりました。一般問題のうち、薬学理論問題の科目は「実務」を除いた6科目、薬学実践問題の科目は「実務」を除いた6科目と実務の複合問題及び「実務」単

独となりました。問題数は記載の通りです。

- (4) 合格基準として、1. 全問題への配点の65%を基本、2. 必須問題は全問題への配点の70%以上、かつ各科目の配点の50%以上、3. 一般問題は各科目の配点の35%以上、が定められました。

さて、試験実施内容を踏まえて、第97回薬剤師国家試験における本学の成績を見てください。表2にあるように、本学の合格率は、総数(6年制学生とその他の学生の総和)で94.94%、6年制(6年制学生のみ)で98.19%でした。新卒合格率95%以上を目指してきた旧薬剤師国家試験における本学の目標と比べて、6年制の合格率は3%上回りました。さらに、表3にあるように必須問題、薬学理論問題及び薬学実践問題のいずれの区分でも科目別換算点は全国の平均を上回り、全体的な成績も良好で、学生は頑張ってくれたと思います。しかしながら、合格率の大学ランキングでは全国66校中、総数で第10位、6年制で同第17位でした。旧薬剤師国家試験における近年の本学順位と比べた場合[第94回薬剤師国家試験結果;新卒とその他の学生を含めた全体合格率は89.66%(全国61校中第7位)、新卒合格率は94.83%(同第5位)、少し残念な結果となりました。表2に示されているように全国における6年制の合格率が高く(95.33%)、合格

表1 新薬剤師国家試験の問題区分

科目	必須問題		一般問題				出題数計	合格基準
	出題数	合格基準	薬学理論問題	薬学実践問題	出題数計	合格基準		
物理・化学・生物	15	各科目 50%以上	30	15 (実務との複合)	45	各科目 35%以上	60	
衛生	10		20	10 (実務との複合)	30		40	
薬理	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
薬剤	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
病態・薬物治療	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
法規・制度・倫理	10		10	10 (実務との複合)	20		30	
実務	10		—	—	65 (実務以外との複合)		85	95
出題数計	90	70%以上	105	150	255	345	65%以上	

率が上位の大学間でいわゆる団子状態となり、僅差で他大学に若干遅れをとったことが一因であると思います。受験者数が本学に比べて少ない大学が上位に多く並んでいることを考慮したとしても国公立も含めて7校もの大学が合格率100%（6年制）という現実には真摯に受け止めておくべきと考えます。また、卒業生から返送されてきた「自己採点」の分析結果から、表1に記載されている科目別の足切りが厳密に実施されたことがわかりました。旧薬剤師国家試験時代にはなかったことであり、国家試験対策において今後十分に注意していく必要があります。

これらの結果を踏まえて、ここからは、平成24年度の薬剤師国家試験対策の方針について記載します。

本学は6年制（薬学科）とともに4年制（薬科学科）を併設しています。平成24年度の薬剤師国家試験対策は6年制（薬学科）の6年生、前年度の卒業延期学生、そして4年制（薬科学科）卒業後さらに修士課程を修了した、いわゆる4+2学生に対して実施します。4+2学生については5ヵ月間の実務実習期間以外で薬学総合演習3・4を実施する計画を立てています。卒業延期学生については、本学教員による講義に加えて、外部講師による講義を適時配置し、通年の講義を設定しています。卒業延期学生にはこれまで以上にきめ細かな特別処置を行い、これら学生の薬剤師国家試験全員合格を目指します。

さて、6年制（薬学科）は「薬剤師養成」を第一の目的として設定されたものです。従って、薬学科の6年生については旧薬剤師国家試験における本学目標と同様、合格率を95%以上に保つこと及び全科目の正答率を全国平均値より上回ることを今年度の目標にして国家試験対策を行います。具体的な対策方針は以下の通りです。

1. 6年制学生の国家試験の成績を全国レベルに保つため、個々学生の弱点克服に主眼を置く。
2. 薬学総合演習3・4は本学教員があくまでも主体となって行い、外部講師とも協力して、効果的に授業を進める。
3. 学習到達度の評価を徹底して行い、学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に適した授業を進める。

表2 第97回薬剤師国家試験成績

			受験者	合格者	合格率
			(人)	(人)	(%)
本学	6年制	男	81	79	97.53
		女	140	138	98.57
		計	221	217	98.19
	その他		16	8	50.00
	総数		237	225	94.94
私立	6年制		7,901	7,537	95.39
	その他		1,034	396	38.30
	総数		8,935	7,933	88.79
全国	6年制		8,583	8,182	95.33
	その他		1,202	459	38.19
	総数		9,785	8,641	88.31

表3 第97回薬剤師国家試験 学校別・科目別・換算点

		受験者	全体	必須	一般	理論	実践
全国 (A)	合計	9,785	75.47	86.24	71.67	68.19	74.10
	6年制	8,583	77.82	88.43	74.08	70.73	76.42
	その他	1,202	58.65	70.59	54.44	50.06	57.50
本学 (B)	合計	237	78.29	88.86	74.55	71.39	76.77
	6年制	221	79.45	89.77	75.81	72.78	77.94
	その他	16	62.14	76.25	57.16	52.26	60.58
差異 (B)-(A)	合計		2.82	2.62	2.88	3.20	2.67
	6年制		1.63	1.34	1.73	2.05	1.52
	その他		3.49	5.66	2.72	2.20	3.08

4. 複数回の総合試験を国家試験形式（345問、2日間）で実施し、その結果を公表して学生の弱点克服に活用する。
5. 薬学総合演習3・4の単位認定は後期後半に実施する正規試験で評価するが、その基準は「第98回薬剤師国家試験に合格できる学力を十分に有している」かどうかで判断する。

最後に、薬学総合演習の授業時間は限られているため、すべての項目を取り上げることは不可能であり、授業はあくまでも「学習のチェック」に用いるべきであり、学習の本体はあくまでも「自己学習」に置かなければなりません。6年間大学に在籍し、薬剤師免許を取得できずに社会に出ていくことは、皆さんの将来にとってダメージがとて大きいと思われます。国家試験対策を最大限に有効活用できるように「自己学習」に励むことが合格への近道であることを肝に銘じてください。

平成24年度 公開教育講座について

公開教育講座委員長 教授 大野 行弘

大阪薬科大学公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983(昭和58)年に発足し、本年で30周年を迎えます。これは全国薬系大学の公開教育講座の中でも最も長い歴史を持つもので、これまでの参加者も非常に多数にのぼります。特に、2005(平成17)年度からは「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」を基幹テーマとして、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点について、修学、討論の場を提供してまいりました。(本学ホームページ「公開教育講座のあゆみ」をご覧ください)

平成24年度は「がん疾患」を取り上げ、「乳がん」、「血液がん」、「消化器がん」をテーマに、がん患者さんに対する心のケアも含め、診断、治療、薬物療法に関する最新情報を提供し、幅広く討論頂く予定です。



内富先生のご講演

初回の第60回公開教育講座は去る5月19日(土)に開催され、岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科の内富庸介先生に「がん医療におけるコミュニケーションスキル」と題して、がん患者の心のケアを扱う精神腫

瘍学の立場から、がんに対する心の反応、がん患者・家族への心のケア、薬剤師に求められるコミュニケーションスキルなどについて講演頂きました。



玉木先生のご講演

また後半では、大阪府立成人病センター 乳腺・内分泌外科の玉木康博先生に「乳癌治療の今とこれから」と題して、身近な疾患である乳がんについて、その診断・治療法の進歩と治療薬の使い方を、臨床的な立場から講演頂きました。会場である梅田スカイビルには、近畿一円から約400名の先生方が参加され、活発な質疑応答を頂き、盛会裏に終了することができました。

今後とも、最新の医療情報を学ぶ生涯教育の場として、本学公開教育講座をご活用頂ければと願う次第です。以下に平成24年度の講座詳細をお示しします。

末筆ながら、本学公開教育講座は(財)日本薬剤師研修センターならびに(社)日本薬学会近畿支部との共催、(社)大阪府薬剤師会ならびに大阪薬科大学同窓会の後援により開催されており、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

平成24年度 大阪薬科大学公開教育講座

第60回公開教育講座 平成24年5月19日(土)(開催済み)

～「乳がんの診断と治療」～

「がん医療におけるコミュニケーションスキル」

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科

精神神経病態学 教授 内富 庸介 先生

「乳癌治療の今とこれから」

大阪府立成人病センター 乳腺・内分泌外科

主任部長 玉木 康博 先生

第62回公開教育講座 平成24年11月17日(土)

～「消化器がん(予定)」～

(演者 未定)

会 場：新梅田シティ 梅田スカイビル

タワーウエスト 36階

開講時間：午後2時～午後5時35分

第61回公開教育講座 平成24年7月21日(土)

～「白血病、血液疾患の診断と治療」～

「悪性腫瘍に対する新たな挑戦としての免疫・

細胞療法臨床研究の現状：自験例を中心に」

九州大学 生体防御医学研究所ゲノム病態学分野

教授 谷 憲三朗 先生

「血液内科の今～G-CSFがもたらしたもの、

外来化学療法、そして新規薬剤～」

市立豊中病院 血液内科 部長 小杉 智 先生



なお、参加者には日本薬剤師研修センター(2単位)、大阪府薬剤師会(5単位)、大阪府病院薬剤師会(1.5単位)および京都府薬剤師会(1.5単位)の受講シールが発行されます。

平成24年度市民講座 開催報告と予告

市民講座委員長 教授 松村 人志

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様には医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動を活発に行ってまいりました。お蔭様をもちまして、本学周辺を中心に、地域住民の方々の年間行事として定着し、これまでに33回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

去る5月26日(土)に、第33回市民講座を下記の内容で開催いたしました。当日は、天候にも恵まれ、大変盛況な市民講座となり、参加者数は前回から大きく増

加して432名(学生含む)もの方々にお越しいただきました。

また、第34回については、現在企画検討中ですが、11月下旬の開催を予定しております。さらに、本学では、高槻市の都市文化の振興とまちの活性化に協力するために、様々な高槻市の事業に参画しております。本年度も「高槻市大学交流センター事業市民講座」を下記のとおり開催いたします。

いずれも、地元の市民の方々はもちろん、本学教職員や学生、ならびにそのご家族の皆様方のご参加を期待しております。

第33回大阪薬科大学市民講座

2012.5.26 開催



講師の藤阪 保仁先生(左)と 谿 忠人先生(右)



パネルディスカッション

平成24年度市民講座

第33回 平成24年5月26日(土)
13:00~16:10 (開催済)

『西洋医学と東洋医学シリーズ

—第1回がんの予防と治療—

1. 「がん薬物治療の最前線 個別化治療の幕開け」
近畿大学 医学部 内科学教室腫瘍内科部門

講師 藤阪 保仁 先生

2. 「現代のがん治療と漢方 —漢方薬にできること—」
(元)富山大学 和漢医薬学総合研究所

教授 谿 忠人 先生

3. パネルディスカッション

第34回 平成24年11月下旬
13:00~16:10 (予定)

平成24年度高槻市大学交流センター事業関連

市内5大学リレー市民講座 夏休み子ども大学
平成24年8月18日(土) 9:30~12:00

『薬用植物を感じる』

大阪薬科大学 生薬科学研究室 准教授 芝野 真喜雄 先生
会場：大阪薬科大学 (薬用植物園及び実習室の予定)

平成24年度大学交流センター事業市民講座
平成25年2月16日(土)14:00~15:00(予定)

『お薬の上手な飲み方—吸収に関するお話—』

大阪薬科大学 薬物治療学Ⅲ・臨床薬理学研究室
講師 加藤 隆児 先生

会場：高槻市立総合市民交流センター8階
イベントホール



製剤設計学研究室
教授 戸塚 裕一

平成 24 年 4 月 1 日付で、新設された製剤設計学研究室を主宰させていただくことになりました。大阪薬科大学の皆様にご挨拶を申し上げます。私は、平成 11 年に千葉大学薬学研究科の博士後期課程修了後、千葉大学薬学部・製剤工学研究室内の助手、平成 16 年から英国 Bradford 大学薬学部に文部科学省在外研究員として勤務した後、平成 18 年より岐阜薬科大学・製剤学研究室の助教授、准教授を経て、本学に赴任しました。東日本から西日本にかけて、国立大学薬学部、公立薬科大学、私立薬科大学の 3 つの大学で勤務する機会に恵まれ、薬学を広く眺めることができたことを大変幸運と思っております。

学生時代から今日に至るまで、一貫して製剤学

にこだわって教育・研究に従事してまいりました。新たな剤形を設計するために、医薬品と製剤添加剤との間におこる特異的な相互作用を利用して、機能性を持った粉末を設計することなどに取り組んできました。製剤学は医薬品としての最終剤形に直結する学問領域ですので、製薬会社や食品会社での生産・管理、医療現場で望まれる剤形をシーズとした発展研究などができるため、世界中で多くの研究者が研究・開発に関わり切磋琢磨しております。しかし、日本ではジェネリック医薬品開発も含めて、人材需要が多い分野にもかかわらず、研究者の絶対数が少なく、特に京阪地域では大学で製剤学に特化した研究を行っている研究室はほとんどありません。

大学としての独自性や特色を出していかないと、大学が淘汰されるような厳しい社会情勢ですが、新しい研究室を立ち上げることによって、微力ながら大阪薬科大学の特色化に貢献できたらと考えております。皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



臨床実践薬学教育研究室
教授(特任) 出開 豊子

この度、平成 24 年 4 月 1 日付で、臨床実践薬学教育研究室に着任しました出開「デハリ」と申します。珍しい名前ですので読み方を覚えていただければ幸いです。「臨床導入実習」、「薬学総合演習 2」、「病院・薬局実務実習」等の薬学実務実習教育を担当させていただくことになりました。

私は岡山県倉敷市児島の出身で、高校卒業まで笹羽山や瀬戸大橋などが近くにある風光明媚な瀬戸内海に面した非常に温暖な地で育ちました。その後徳島大学薬学部薬学科に入学し昭和 49 年 3 月に卒業後、市立吹田市民病院に入職しました。38 年の長きにわたり臨床現場で、その時々々の要求に応じて移り変わる薬剤師業務の変遷を身をもって体験してきました。今、医療現場で薬剤師に求

められていることは何だろうか？ 薬剤師の職能とは？と日々、自問しながら取り組んでまいりました。そうした病院薬剤師としての経験を、今後は薬剤師を目指して励んでいる学生の皆様に少しでも役立つ情報として伝えることができればと思います。教育に携わる道を選択いたしました。

平成 18 年に薬学部が 6 年制となり、本年 4 月にはその第一期生が薬剤師として各分野に巣立っていきました。言うまでもなく臨床現場では「薬の専門家」としての臨床薬剤師の増加を待望しております。しかし残念ながら、まだまだ期待通りの評価になっていない現状もあります。医療人としての資質を備え、良好なコミュニケーション能力を有し、他の医療スタッフのみならず患者さんから、信頼される薬剤師の育成に寄与していきたいと考えております。

これまでの経験を生かし、微力ではございますが本学の薬学教育に貢献できるよう努力する所存ですので、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



環境医療学グループ
准教授 阪本 恭子

大阪薬科大学の皆さま、こんにちは。平成24年4月1日付で環境医療学グループに着任しました阪本恭子です。

学生の皆さんとは、医療総合人間学やドイツ語の授業でお目にかかることになります。薬学のプロを目指して精進されている皆さんを拝見するたびに、本学で勤められるのを、ほんとうに有難く思います。今のこの気持ちを忘れずにいたいと思います。皆さんも、どうぞご自身の夢に向かって、今、何が大事かを見極めながら、一日一日を過ごしてください。

さて、私のことを少し述べさせていただきます。大阪出身ですが、長年ドイツで生活しました。また、お茶の水女子大学、マインツ大学(ドイツ)、大阪大学で哲学と倫理学を修めるなど、さまざま

な風土で、多くの人々に育てられてきました。そのような体験のなかで、学んだことが二つあります。

一つは、「他人は自分の鏡」ということです。他人に向ける声や顔つき、態度が、そのまま自分に返ってきます。初対面の人にも明るく声をかけます。言葉が通じなくても笑顔で話しかけます。怪訝な顔をされても何度も試みます。「いやな人間」はいません。その人を「いやだな」と思う自分がいるのです。

もう一つは、「どんな人とも、時間をかけて向きあえば、考えや思いを分かちあえる」ということです。ここでも、現在の自分を明らかに見つめる眼と、他人との関係のなかで自ら変化することを明(あき)らめない心が求められます。そうして自分にも他人にも誠実であるのは難しいですが、素敵なことです。さまざまな人に会って、新しい自分を発見すること—その積み重ねが学問ではないでしょうか。いっしょに楽しく学んでいきましょう。

皆さまお一人ひとりとともに、大阪薬科大学の一員として、これからも教育・研究活動に励みます。よろしく願い申し上げます。



薬品分析化学研究室
助手 東 剛志

この度、平成24年4月1日付で薬品分析化学研究室の助手に就任しました東 剛志と申します。私は本学修士課程を修了後、京都大学大学院工学研究科博士課程に進学し、流域圏総合環境質研究センターにおいて、近年社会的な関心を集めつつ

ある、水環境中に存在する残留医薬品(特にタミフル等の抗インフルエンザ薬)の問題に関する評価と対策に関する研究で学位(博士(工学))を取得し、ご縁があつて教員として戻って参りました。

これから薬学を学んだ者が社会で果たす役割の一つとして、人の健康維持のために環境面からも尽力・貢献していくことが社会的にも強く望まれています。これまでの経験を生かし、日々の教育研究活動に努力していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

平成23年度研究助成(論文助成)金

平成23年度研究助成(論文助成)金について、
交付件数は55件、交付総額は7,798,038円でした。

(研究委員会)

分子構造化学研究室

分子構造化学研究室は、故・井上正敏教授が昭和43年に着任した物理化学教室が前身となり、今に至っています。現在5年次生が16名、6年次生が13名の計29名が特別実習生として配属されています。薬学部ではめずらしいことではありませんが、女性の割合が多いこともあり全員がそろってテーマパークのように賑やかです。その傍ら男子学生達は静かな日々を過ごしています。今年3月に薬学6年制に移行後初めての卒業生が出ました。当研究室からも8名が卒業しましたが、配属期間中に行われた長期実務実習、就職活動、薬剤師国家試験対策などどれも今までとはずいぶん変化があり、戸惑うことも多くありました。特に新制度で初めて実施された薬剤師国家試験には大きな関心が注がれてきましたが、本学もそこそこの成果がでたことに一安心しています。また、4年制の特研とは違って、6年制では2年間も研究室に在籍しており（うち半年間は長期実務実習に参加）、実験量が大幅に増えたことで多くの学生が意外にも何らかの結果を出すところまで到達しています。薬学6年制のデメリットが語られることが多い中で、特研期間の充実は思わぬ収穫であり、テーマによっては学部生でも薬学会などに発表することも現実のものとなりつつあります。ただ、今の配属学生数は、現在の研究室スペースも、教員負担もほぼ限界であり、一時期に全員が集中したり、講義などで全員がいなかったりする状況を回避できるカリキュラムの“うまい”運用を切望しています。

分子構造化学研究室は物理分析系に属し、まさしく

分子の構造と化学について研究を行っています。授業の内容からエントロピーなどの熱力学が研究テーマになっていると誤解している学生も多いですが、主にペプチドの構造と機能について調べています。ペプチドはアミノ酸5～20個程度がCONH結合で繋がったもので、タンパク質よりかなりサイズ（分子量）が小さいことが特徴です。そのため、遺伝子組み換えなどの生物的な手法にたよらなくても、一つ一つのアミノ酸を脱水縮合することで化学的に合成することができます。化学合成の良いところは、天然には存在しない人工的なアミノ酸や、Dアミノ酸を用いることができる点です。このため、誘導体を作成する際には、天然の20種類のアミノ酸にとらわれることなく、新しい機能を付加することを目指した多様なデザインも可能になります。このような手法を用いることで（1）海洋生物由来のチアゾール含有ペプチドの細胞毒性と構造について、（2）タンパク質の基本構造である α ヘリックスおよび β シート構造の化学的修飾と構造安定性について、（3）短鎖3重らせんペプチドのデザイン、（4）モデルペプチドを用いたアミロイド形成過程について、などの研究を行っています。

これからも5、6年次の2学年が同時に研究室に配属されます。最初は初対面どうしの者も多く、また、先輩後輩の交流も薄い時代に、卒業研究を通じた交流は人間形成に少しは役立っているかもしれません。実験に没頭しすぎたり（そんな心配はなさそうですが）、薬剤師国家試験対策だけの2年間ではなく、研究室が多くの友人との絆を育てる場となることを願っています。
(記：教授 土井 光暢)



(研究室5年次生の声)

分子構造化学研究室は、5、6年次で総勢29名で、各々が自由にのびのびと研究しています。バーベキューや球技大会、夏には特研旅行があり、楽しいイベントがたくさん控えています。先生や先輩がすごく手厚くサポートしてくださり、研究を失敗してもフォローしてもらいながら、研究を頑張っています。

生体機能解析学研究室

生体機能解析学研究室は、B棟（研究棟）5階北側にあり、現在、教員3名（教授：高岡昌徳、講師：坂口実、助手：田中智）と学部学生21名（6年次生10名、5年次生11名）の総勢24名が、研究に励んでいます。私たちの研究室に所属する学生のほとんどは、培養細胞を使用して、細胞増殖のメカニズム解明と新しい抗がん薬の開発を目指して研究を行っています。細胞増殖における細胞内タンパク質分解酵素の機能解明とその阻害薬の抗がん薬としての有用性に関する研究や、抗がん作用を有する化合物の探索研究として、本学の有機薬化学研究室や生薬科学研究室と共同研究を行っている学生もいます。これらの研究を通じて、化学合成品や生薬成分の中に、培養ヒト乳がん細胞やヒト胃がん細胞の増殖を抑制する化合物を見出すことができました。

現在取り組んでいる研究テーマについて紹介します。

(1) 細胞増殖における細胞内タンパク質分解酵素の機能解明とその阻害薬の抗がん薬としての有用性

本研究では、特にプロリルオリゴペプチダーゼ（POP）というペプチドを加水分解する酵素に注目しています。POPは、その性質から神経伝達に関与していると考えられており、POP阻害薬は認知症の治療薬として開発が期待されています。一方、POPはヒトのがん組織で活性が上昇していることが報告されており、我々はこの点に着目して細胞増殖にPOPがどのように関与しているかを調べています。細胞周期の回転は、進行を促進あるいは抑制するタンパク質の発現と分解の繰返しで調節されており、その分解はユビキチン-プロテアソーム系が行っていることが知られています。本研究は、この一般的解釈とは別に、POPが関与する細胞周期制御機構を解明することが目的です。本研究によって、がん細胞のPOP活性を調節することが新たながん治療法に発展するかもしれません。

(2) 乳がん細胞の増殖に対する薬物の効果とそのメカニズムの解明

乳がんにかかる日本人の数は年々増加しており、日本人女性では2000年に胃がんを抜いて発生率第1位になりました。一生のうちで乳がんになる人の割合（生涯疾患率）は4%であり、日本人女性の25名に1名という計算になります。そのうち、およそ6割の乳がんは女性ホルモンであるエストロゲンによって増殖するホルモン感受性の乳がんといわれています。したがってエストロゲン合成を阻害する薬物は乳がんの治療に有効です。我々は、エストロンやエストラジ



オールなどのエストロゲン生合成酵素に対する合成阻害薬の生化学的および細胞生物学的な活性評価を行っています。本研究は、有機薬化学研究室との共同研究で、乳がんの新しい治療薬の開発を目指しています。
(3) 細胞の生存や傷害の保護および分化促進活性を有する化合物の探索

生体内の細胞は、様々な有害物質や疾病によって傷害を受けて死滅したり、あるいは異常に増殖したりします。このような細胞機能の異常を予防・軽減する物質は、健康の維持や、疾病の予防・治療に有用です。本研究は、生薬科学研究室との共同研究で生薬成分を中心に、日常摂取する食品、機能性食品、サプリメントなどに含有されている化合物についても、培養細胞の増殖・生存・分化・死に及ぼす影響を検討して、制がん作用や細胞死抑制作用、あるいは細胞機能を維持する効果を示すものを探索しています。

（記：講師 坂口 実）

学生（5年次生）の声

- ・先生を中心にほんわかした楽しい研究室です。やるときはやる、遊ぶ時は遊ぶ!! メリハリつけて頑張ってます。 (N.S.)
- ・実験が思うようにできないときは落ち込みましたが、論文を読んだり、先生や先輩にアドバイスをもらって試行錯誤しながら実験を進め、成功した時はとても達成感があります。 (Y.I.)
- ・私たちの研究室は、みんな個性的で楽しいです。 (K.Y.)
- ・だんだん細胞に愛着がわいてきます。 (T.K.)
- ・一人ひとり研究テーマが違うので、責任感が向上します。 (Y.I.)
- ・責任を感じながらも、仲間と励まし合ってやるので、やる気も出て楽しくできてます。 (E.M.)

病態分子薬理学研究室

病態分子薬理学研究室では、「細胞レベルでの遺伝子解析から丸ごとの動物実験まで」を基本理念とし、病態の解明と治療薬の開発に貢献できるよう日々研究に努めてきました。現在、当研究室では、3名の教員（教授：松村靖夫、准教授：大喜多守、助手：田中亮輔）を中心に、大学院生5名、薬学科6年次生14名、5年次生16名の総勢38名で研究活動に励んでいます。高血圧などの循環器疾患の発症や維持には多くの生体内因子が関係しています。私たちの研究室では、「エンドセリン」や「一酸化窒素」などの生理活性物質に焦点をあて、培養細胞や種々の病態モデル動物を用いて、各種循環器疾患との関わりについて検討しています。

以下、具体的な研究テーマについて紹介します。

(1) エンドセリンの遺伝子発現調節機構

エンドセリンは、我々の体が産生する物質としては最も強力な血管収縮性ペプチドであり、高血圧や心臓病などの発症に関わっている可能性があります。これまでに、その生合成機構について種々の検討を行い、いくつかの重要な知見を得ています。現在は、ラットあるいはヒトの培養血管内皮細胞を用い、遺伝子発現およびその転写調節の観点から検討しています。

(2) 種々循環器疾患の発症・進展機構におけるエンドセリンの病態学的役割

主にラットを用いて、高血圧、急性腎障害、慢性腎臓病および虚血性心臓疾患などの実験的モデル動物を用いて、病態の発症と進展における様々な生体因子の役割についてエンドセリンを中心に検討を行っています。

(3) 腎交感神経活動とその調節機構

麻酔動物を用いて、腎交感神経活動・交感神経からのノルアドレナリン放出と腎機能変化に及ぼす種々の生理活性物質や各種薬物の影響について検討しています。

(4) 循環器疾患と性差

虚血性腎障害、虚血性心臓疾患モデルなどを用いて、病態の発症・進展における性差発現のメカニズムについて検討しています。

(5) 交感神経からのノルアドレナリン放出機構

腸間膜動脈や心臓の灌流標本を用いて、交感神経からのノルアドレナリン放出機構について種々の観点から検討しています。

(6) 健康食品の薬理学的研究

セサミンやフラバンジェノールなど、各種ポリフェノール成分の抗高血圧作用や血流改善効果などの作用メカニズム解明を目指しています。

(7) 肺性高血圧の病態発症と薬物治療

肺性高血圧は、心臓から肺に血液を送る肺動脈の血圧が高くなり、心臓と肺の機能に障害をもたらす病気です。以前は有効な治療法のない難病とされていましたが、近年では薬剤の開発が進み、治療効果も上がってきています。今後のさらなる治療の進歩が期待されており、当研究室でも種々の肺性高血圧モデルを用いて、その発症機構と薬物による病態改善効果について検討しています。

以上の各テーマについて、2～5名のチームで取り組んでいます。6年次生には薬剤師国家試験の勉強や就職活動、5年次生は病院・薬局実務実習があり、研究に専念できる環境とは言い難いですが、チームで取り組むことにより協力し合って勉学と研究活動との両立を目指しています。研究に意欲的で熱心な学生が多く在籍し、日々、研究に励んでいます。

研究室員みんなで切磋琢磨し、お互いを高め合い、常に一步上を目指す…これが病態分子薬理学研究室のモットーです。研究意欲があり、上記の研究内容に興味のある人はいつでも見学にきてください。

(記：助手 田中亮輔)



<所属学生のコメント>

病態分子薬理学研究室は「やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ」メリハリのとれた研究室です。研究は各チームで計画を立て自主的に取り組みます。就職活動や試験勉強でも研究室のみんなで一丸となり、お互いに情報を共有し合って乗り越えます。一方で、お花見や毎年恒例のUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）、夏の研究室旅行、忘年会などイベントも多く、遊ぶときには目一杯遊びます。何事にも全力投球の研究室です。

若いうちに異文化体験を

言語文化学グループ 准教授 スミス 朋子

現在の私の専門は、言語学・英語教育ですが、大学では食物学を専攻しています。高校時代に漠然と文系コースを選んだのですが、高校後半ではどちらかというと理系科目の方が得意になっていました（今はすっかり駄目ですが）。文系出身で大学の専攻を理系にするのは、選択肢が限られています。結局、食べることが好き、食に興味があるからという理由で「食物学」を選びました。前置きが長くなりましたが、実は、高校時代に英語が得意ではなかったのです。どちらかというと苦手な科目でした。

大学の時も3回生までは英語には無縁に近い状態で、大学で英語の授業を受けたただけでした。ところが、3回生になった春、英文科の友人が夏休みにイギリスに短期留学(2週間)へ行くので一緒に行かないかと誘ってくれました。イギリスは祖父が若いときに住んでいた国なので、以前から行ってみたいと思っていました。無論OKして、無謀にも前もって英語を勉強することなど全くしないで渡英しました(これはお勧めしません)。

イギリスの滞在地はケンブリッジで、それは、それは美しい街でした！ 映画のシーンに出てくるような街並みで、それだけでも行く価値はありました。肝心の英語の方ですが、ほとんど話すことはできず、語学学校では下の方のクラスに振り分けられました。クラスには、オランダやスペインなど他国からの学生もいて、その人たちとコミュニケーションするのはとても楽しかったです。お互い下手な英語を使ってなんとか言いたいことを伝えようとしていました。

滞在中は小さな子供がいるイギリス人の家庭にホームステイしました。言いたいことが上手く伝えられない、相手の話していることがよく分からないなど困ったことも数多くありましたが、色々なことを学びました。例えば、ある朝「今晚、家では晩御飯を食べません」と言いたかったので、前日の夜に辞書を使って一生懸命考えた英作文“You don't have to prepare dinner for me tonight”をあまりにもたどたどしい英語で話すと、ホストマザーは“Tomoko, just say 'No dinner, please!'”と言ってくれました。よく中学英語で英会話には十分対応できるといいますが、日常会話なら本当にその通りだと思います。嫌いな人・苦手な人でも努力すれば必ず上手になれるのであきらめないでください。

英語オンリーの授業にも慣れてくると、少しずつ色々なことが見えてくるようになりました。オランダ人の友人はフレンドリーだが個人主義である、スペイン人は集団行動が好きで、集まったら歌を歌っていたりし



ているなど、少ないサンプルでしたが、外国の文化に触れることができたと思います。このようなことは本やメディアから得ることもできますが、その場合は単なる知識で終わりがちだと思います。しかし、実際に外国人と触れ合うことにより、肌で色々なことを感じることはできました。そういう異文化体験をすることが、留学の最大のメリットではないかと思っています。

では、自分以外の他者を知り、肌で感じるということにどのような意味があるのでしょうか。これは、人間として生きていくためには他者と共生することが必要ということが前提です。グローバル化の時代、日本人だけで生きていくことはできません。実際、2008年から日本では外国人介護士・看護師の受け入れが始まっていますし、近年日本政府はメディカルツーリズムを推進しています。皆さんが就職し、5年先、10年先、どんな状況になっているのでしょうか。私にもはっきりとは分かりませんが、最近頻繁に「多文化共生」と言われるように、色々な文化の人を受け入れて一緒に共存することが現代社会の在るべき姿だと思っています。

外国のことだけを書きましたが、実は文化の違いは同じ日本人にも存在します。関東と関西でも人の行動様式はかなり違っているのは有名ですが、同じ関西でも多様な文化、考え方、振る舞い方があると思います。私は医療通訳のボランティアをしていますが、そこでも様々な人と出会ってきました。大学はアカデミックな世界であり、ある程度背景が似た人が集まりますが、ボランティアグループは、年齢層も幅広く、会社員、医師、主婦、在日外国人など本当に色々なメンバーで構成されています。当然、考え方が違う人が集まっているため、トラブルや衝突もありますが、それもよく話し合っ解決しようとしています。大切なのは、違うことを悪いと思わない、その考えが自分と合わなくてもそれはそれで尊重するということが成功の鍵となると考えています。

学生の皆さんにはできるだけ若いうちに大学以外、これまで自分が慣れ親しんだ環境以外の場所で何かを経験していただきたいです。そこで経験したことは、社会人となって働くときにもきっと役に立つと思います。是非、自分から機会を作って出かけてみてください。

平成23年度 進路・就職状況報告

キャリアサポート課

平成23年度 学部卒業生（36期生）の進路・就職状況について報告します。

平成23年度、学部学生の就職率は98.6%です。内定状況としては、薬業関連企業の内勤職〔研究・開発等〕16.1%、MR15.6%と計31.7%の学生が薬業関連企業に就職しています。また、病院28.0%、病院研修生1.8%、薬局22.5%です。さらに公務員13.8%（大阪府、神奈川県、奈良県、広島県、山口県、大阪市等）に就職し、今年度も高い合格率を維持しています（平成24年3月31日現在）。

平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」に採択された、本学の取組み『学生の適性に応じた多様なキャリアサポート』（期間：平成21年度～平成23年度）で作成した教材や新規開催の各種ガイダンス、模擬テスト等をさらに充実させて学生をサポートしています。6年次生（当時5年次生）は、薬局・病院実務実習を3月26日で終了後、本格的な就職活動時期を迎えま

した。一昨年度からこの学生支援推進事業を利用し、実務実習中の就職活動サポートを1月から3月までの土曜日に本学および大学コンソーシアム大阪会場を利用して開催しました。5回のガイダンス（エントリーシート・履歴書・集団面接、グループディスカッション・個別面接）で、参加者も延べ400名を超え成功裏に終わることができました。これらのガイダンスはキャリアサポート課担当者と外部の面接官が連携することによって、参加した学生からは「就活に向けて意識が高まった！」「自分の弱点が明確になり、就活力が向上した！」との高い評価がたくさん寄せられました。

本学キャリアサポート課では、1年次生からキャリアガイダンス等を実施しています。さらにTOEIC試験も学内で受験できる体制を整えるなど多様化している学生のニーズ、興味、能力、価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、担当職員（専属キャリアカウンセラー）等を中心にきめ細かな対応に努めています。



■「5年次生 学外ガイダンス①」 —大学コンソーシアム大阪会場—

「自己分析・履歴書の記入
・添削・個別指導風景」

100名の参加者があり、キャリアカウンセラーが学生一人ひとりをしっかりサポート！



■「5年次生 学外ガイダンス②」 —大学コンソーシアム大阪会場—

「集団面接トレーニング風景！」
実践しながらのトレーニングを実施！

集団面接トレーニングは、2つのグループに分かれて実践し、学生もお互いに評価することによって、試験官の視点も学習することができます。さらに面接官からの評価シートは、学生一人ひとり評価されキャリアサポート課において個人面談等でフィードバックを行います。

平成23年度 キャリアサポートガイダンス実施状況

No	開催日程	対 象	内 容
1	4月1日	新入生保護者(育友会)	就職説明会「就職状況・キャリアサポート部(課)の取り組みについて」
2	4月4日	1年次生	新入生キャリアガイダンス「夢をかなえるために！」
3	4月7日	5・6年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(病院・薬局・公務員等80社)
4	4月18日	5年次生他(全学年)	ブンナビ薬学特別講座
5	4月22日	全学生	第1回公務員対策講座
6	4月25日	5年次生	就職活動を始めるにあたって・実習前の諸注意
7	5月16日	6年次生・大学院生	面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(病院・薬局・官公庁等)
8	5月20日	全学生	第2回公務員対策講座
9	5月23日	6年次生・大学院生	小論文・集団面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(薬局・病院・官公庁等) 1
10	5月23日	6年次生	小論文・集団面接ガイダンス
11	5月30日	6年次生	病院希望者個人相談会(実務実習担当教員との面談) ①
12	6月6日	6年次生	病院希望者個人相談会(実務実習担当教員との面談) ②
13	6月10日	全学生	第3回公務員対策講座
14	6月13日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(製薬企業)について」
15	6月20日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(病院)について」
16	6月20日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	病院ガイダンス1
17	6月21日	6年次生	小論文・集団面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(薬局・病院・官公庁等) 2
18	6月22日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(公務員)大阪府について」
19	6月24日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(薬業関連企業)卸について」
20	6月27日	6年次生	病院希望者個人相談会(実務実習担当教員との面談) ③
21	6月27日	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	病院ガイダンス2
22	5・6月	5年次生	個人面談(進路意向確認)
23	6・7月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」選考(個人面談)
24	7月7日	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」事前教育
25	7月12日	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学1
26	7月15日	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学2
27	7月15日	5年次生・大学院生	自己分析セミナー
28	7月15日	5年次生・大学院生	自己分析(添削)
29	7月20日	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学3
30	7月29日	5年次生	就活・実務実習にあたっての接遇(マナー・身だしなみ)について
31	8月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」実施
32	8月	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション
33	8月29日	5年次生・大学院生	マイコミ就活ガイダンス
34	8月29日	5年次生・大学院生	企業情報収集と整理・コミュニケーションについて
35	9月4日	4・5年次生・大学院生	インターンシップ体験報告会～パネルディスカッション～
36	10月24日	1・2年次生	マナーについて
37	11月5日	1年次生～5年次生	薬業関連業界について/就活前に準備しておくこと
38	11月5日	1年次生～5年次生	病院・公務員について/就活前に準備しておくこと
39	11月14日	3・4年次生	コミュニケーションについて
40	11月21日	5年次生	エントリーシート等(添削個別相談) 予約制 11/21(月)～12/22(木)
41	11月21日	全学生	第4回公務員対策講座
42	11月29日	5年次生	自己分析ミニセミナー
43	12月5日	5年次生	エントリーシート模擬テスト(添削)
44	12月8日	全学生	VOICE ライブトーク
45	12月9日	全学生	第5回公務員対策講座
46	12月22日	5年次生	キャリアガイダンス・6年次生内定者座談会
47	1月28日	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション・模擬集団面接(企業希望者対象)
48	2月4日	5年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR 職等)
49	2月18日	5年次生・大学院生	模擬個人面接(企業希望者対象)
50	2月25日	5年次生・大学院生	自己分析・履歴書ガイダンス(病院・公務員希望者)
51	3月3日	5年次生・大学院生	模擬集団面接・小論文ガイダンス(病院・公務員希望者対象)
52	3月10日	5年次生・大学院生	模擬個人面接(病院・公務員希望者対象)
53	3月19日	5年次生	エントリーシート等(添削個別相談) 予約制 3/19(月)～3/30(金)
★	4月5日	(6年次生)	職種紹介学内企業セミナー(病院・薬局・官公庁等)

平成 23 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業活動状況

研究代表者 教授 辻坊 裕

大阪薬科大学では、文部科学省による私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受けて、平成 23 年度から「組織的研究体系による次世代型感染症治療薬の開発」を課題とする研究プロジェクトがスタートし、現在その整備が進められ、研究が展開されつつあります。

これまでに数多くの優れた抗菌薬が開発され、臨床での治療効果を上げています。その一方で、新興感染症、再興感染症、日和見感染症、さらには多剤耐性菌による感染症などの問題が多発しています。特に、緑膿菌、結核菌、アシネトバクター菌などの多剤耐性菌は、種々の疾病により免疫力が低下した場合、容易に感染が成立し、現在使用されている抗菌薬ではほとんど効果が期待されません。また、これら多剤耐性菌が医療環境に一旦蔓延すると、駆除や排除が困難であり、それを達成するには多大な労力と経費が必要となります。これらのことから、従来の抗菌薬に代わる新たな作用機作を有する新規抗菌薬の開発が待望されています。

近年、次世代シーケンス法の導入により、感染症原因菌のゲノム情報が次々と明らかにされ、病原菌と非病原菌間の比較ゲノム解析による創薬を行うことが可能となりつつあります。しかしながら、最も基礎研究がなされている大腸菌でさえ、機能未知タンパク質が約 40% 存在します。さらに、ゲノム創薬において実際にその標的となるのは、受容体や酵素等のタンパク質ではありますが、ゲノム解析のみではタンパク質間相互作用を理解することはできないため、ポストゲノム時代においてはプロテオーム創薬が重要な手法の一つとなっています。一方、タンパク質以外の機能分子も細菌の増殖に係っています。その一つとして、シデロフォア等の無機元素の輸送体があります。以上の点から、本プロジェクトでは、細菌の増殖機構に関する新規タンパク質および無機元素の輸送体を探索し、その構造解析や生化学的解析を通じて、標的とする感染症治療薬の開発につなげたいと考えています。

本研究プロジェクトに参加している研究者および役割については、別表に示している通りです。大阪薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻には、(1)分子構造・機能解析学、(2)創薬化学、(3)生命・環境科学の 3 つの専攻領域があります。本研究プロジェクトは、

主に分子構造・機能解析学領域に所属する薬品物理化学研究室、薬品分析化学研究室、生化学研究室および微生物学研究室によって実施されるため、プロジェクトを組織的に遂行し、効率よく研究成果を挙げることが期待できます。このように、本研究プロジェクトは、大阪薬科大学における共同研究による創薬の基盤形成の核となる役割も担っているものと考えています。また、平成 24 年 4 月には 2 名の博士研究員（ポストドクター）が採用され、本プロジェクトの進展に貢献してくれるものと期待しております。さらに、本研究課題の根幹である、標的分子の物性および分子間相互作用解析を行うために、生体高分子熱エネルギー物性解析システムを導入しました。本装置は、本学中央機器研究施設の第 2 測定室に設置されておりますので、大いにご活用ください。

現在、研究プロジェクト「組織的研究体系による次世代型感染症治療薬の開発」の目標達成に向け、各研究室において研究が鋭意推進されているところであります。今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

別表 研究プロジェクトに参加している研究者と役割

番号	氏名	研究室	課題
1	辻坊 裕教授 宮本勝城准教授 土屋孝弘助教	微生物学	細菌の増殖機構に関する新規タンパク質の探索
2	友尾幸司准教授 伊 康子准教授	薬品物理化学	細菌の増殖機構に関する新規タンパク質の構造解析および新規感染症治療薬の分子設計
3	箕浦 克彦講師	中央機器研究施設	細菌の増殖機構に関する新規タンパク質の構造解析および新規感染症治療薬の分子設計
4	福永理己郎教授 井上晴嗣准教授 藤井忍講師	生化学	細菌の増殖機構に関するタンパク質の機能解析および酵素科学的解析
5	三野 芳紀教授 佐藤 卓史講師	薬品分析化学	細菌の無機元素輸送体を標的とする新規阻害剤の探索
6	河野広朗(P.D.)		細菌の増殖機構に関する新規タンパク質の探索
	眞本武史(P.D.)		細菌の増殖機構に関する新規タンパク質の構造解析

台北医学大學 楊 教授をご招待—本学で講演・歓迎会開催

生薬科学研究室 教授 馬場 きみ江

1. はじめに

平成 24 年 3 月 23 日(金)に、本学国際交流基金助成事業「海外交流協定大学等からの外国人研究者等招聘事業」として、台北医学大學 教授 楊 玲玲 氏を本学に招き、講演会及び歓迎会を実施しました。

楊 教授とは古くから交流があり、生薬科学研究室教員及び学生が中華民国を訪問した折にもお世話になっており、楊 教授が所属されている台北医学大學からは本学との姉妹校協定締結についても打診を受けております。

そこで、本学の新たな海外学術交流協定の締結先として検討しているところです。



「健康に美しく」なるための薬膳料理や漢方についてご講演

2. 講演会

楊 教授(写真上)は、3 月 23 日(金)11 時頃、本学に来学され、理事長及び学長と懇談後、生薬科学研究室教員立会で学内施設を案内いたしました。

同日 13 時より、本学 D 棟 D 302 講義室において、講演会を実施しました。始めに台北医学大學の大学紹介 DVD を鑑賞した後、演題を「The wisdom and beauty health dietary (薬膳) from Kanpo medicine」として、主に「健康に美しく」なるための薬膳料理や漢方について 1 時間程度講演されました。講演は中国語、英語、日本語の 3 カ国語を使用され、また、講演中には台北から持参された杏仁茶も参加者に振る舞われ、大変ユニークな講義となりました。

参加者は、教員と学生合わせて 65 名となりました。

3. 歓迎会

同日 17 時 30 分より、本学大学会館食堂において、歓迎会を実施しました。楊 教授は日本や本学の印象、ご自身の研究、海外学術交流協定の締結等についてお話しされ、1 時間程度、本学教員及び学生との交流が行われました。

参加者は、教員と学生合わせて 50 名程度となりました。



千熊学長(当時)と筆者(右)



参加学生と記念写真

4. おわりに

今回の国際交流基金助成事業を実施したことにより、台北医学大學と本学がお互いに理解を深め、将来的に海外学術交流協定の締結が行われることは、本学における学術研究や教育のより一層の活性化につながるものと期待しています。

RI 研究施設

RI 研究施設管理責任者 准教授 大桃 善朗

RI（放射性同位元素）は、被曝などの危険性を考慮して、わが国では法的に厳しく規制されており、法的基準を満たした特別のエリア（管理区域）に限定して使用することが義務付けられています。私たちの大学では、様々な基準を満たした RI 使用可能施設として、B 棟（研究棟）地下 1 階に「RI 研究施設」が設置されています。

RI 研究施設には、1 つの大実験室と 4 つの小実験室、測定室、暗室、RI 貯蔵室、廃棄処理室、廃棄物保管室、管理室などがあります。測定室には、ガンマカウンター、液体シンチレーションカウンターなどが完備されています。

RI 研究施設では、 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{22}Na 、 ^{32}P 、 ^{33}P 、 ^{35}S 、 ^{45}Ca 、 ^{51}Cr 、 ^{54}Mn 、 ^{55}Fe 、 ^{60}Co 、 ^{63}Ni 、 ^{64}Cu 、 ^{65}Zn 、 ^{67}Ga 、 ^{75}Se 、 ^{90}Sr 、 ^{90}Y 、 ^{99}Mo 、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 、 ^{111}In 、 ^{123}I 、 ^{125}I 、 ^{131}I 、 ^{137}Cs 、 ^{197}Pt 、 ^{198}Au 、 ^{201}Tl などの放射性核種を使用することができます。このように、本学では、多くの研究者の様々な利用に対応すべく多種類の放射性核種が使用可能となっています。

RI 研究施設を使用するためには、法令や学内規則に従って、事前に業務従事者あるいは一時立入者として登録し、教育訓練を受けなければなりません。さらに、業務従事者の場合は健康診断を受ける必要があります。

図 1 および図 2 は、本学における RI 研究施設の利用状況をまとめたものです。図 1 は、施設使用登録者数の推移を、業務従事者と一時立入者にわけて示してあります。また、図 2 は、施設使用件数の推移を示しています。

さて RI は、法的規制はあるものの、社会の様々な

分野で役立っており、有効利用されています。X 線 CT や PET などの画像診断法は、病気の診断になくてはならない診断法であり、これらは放射線や RI が有効利用されている典型的な例です。

薬学の領域では、RI は、古くからトレーサー実験（放射性同位元素で標識された物質を用いて、その挙動を追跡、解析する方法）や、ラジオイムノアッセイ、ラジオレセプターアッセイなど生理活性物質の高感度極微量測定に用いられてきました。近年では、蛍光を用いる分析方法など様々な高感度分析法が開発されて、このような分析目的に使用される RI の使用は全国的にも減少傾向にあります。しかし RI は、トレーサーとしての有用性は依然として高く、特に、インビボトレーサー実験には不可欠です。

新しく見出した化合物を、新薬として開発する際には、薬物の吸収、分布、代謝、排泄などの体内挙動を明らかにする必要があり、これらのデータは新薬として申請する際に必須のデータとなります。この体内挙動を調べるために、薬物の標識化合物を用いたトレーサー法が広く利用されています。RI を用いたトレーサー法の最大の特徴は、生体内の各部位における物質の分布情報が数値として得られるだけでなく、さらに、オートラジオグラフィーを用いることにより、その化合物が分布している位置や濃度を視覚化、画像化することが可能なことです。

さらに最近では、生きた生体内における様々な営みを、分子レベルで画像化する分子イメージングも大きな注目を集めています。分子イメージングには、蛍光物質など RI を使わない手法も開発されつつありますが、生体内深部の様子を明瞭に画像化するためには、

RI を超えるものは今のところありません。

以上のように、RI は古くから使われてきた手法であり、その一部は他の方法に代替されつつありますが、他には替え難い特徴を持っており、依然として研究を進める際の重要なツールの一つです。

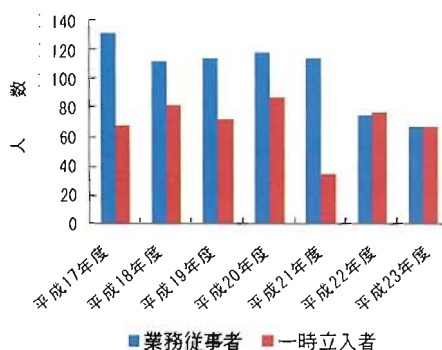


図 1 RI 研究施設使用登録者数の推移

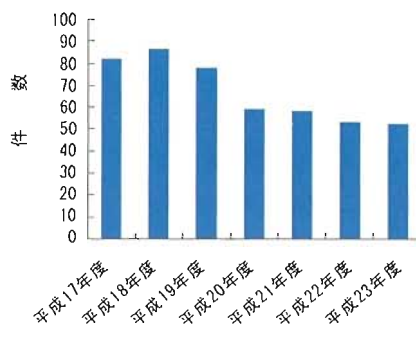


図 2 RI 研究施設使用件数の推移

平成23年度学校法人決算及び平成24年度学校法人予算

事務局長 秋月 延夫

平成23年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成23年度決算については、平成24年5月22日(火)に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明します。

(資金収支計算書)

平成23年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を1,418万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を2億2,750万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は33億3,852万円となりました。

平成24年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成24年度予算については、事業計画及び予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成24年3月27日(火)に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

<収入の部>

(学生生徒等納付金収入)

学部新生は入学定員(300名)として予算編成し、授業料23億3,200万円、入学金1億4,000万円、施設設備費11億5,610万円他を計上しました。

(補助金収入)

私立大学等経常費補助金2億4,800万円、その他の補助金600万円他を計上しました。

(事業収入)

附属薬局の収入予算4億9,900万円他を計上しました。

<支出の部>

(人件費支出)

教員人件費は11億3,717万円、職員人件費は附属薬局分を含め5億2,329万円、退職金は4,700万円他を計上しました。

(教育研究経費支出)

5年次生病院・薬局実務実習費、C棟屋上防水修理工事、教務系システム保守料他、計10億1,938万円を計上しました。

(管理経費支出)

受験生向けホームページ運用費、人事・財務システム保守料、附属薬局費支出他、計5億7,769万円他を計上しました。

(施設関係支出)

建物支出としてC棟1・2F男女トイレ改修工事、B棟新設研究室整備費、D棟自習室改修工事他、計1,903万円を計上しました。構築物支出としてテニスコート改修工事2,700万円を計上しました。

(設備関係支出)

教育研究用機器備品支出として、6,446万円を計上しました。

■平成23年度決算

平成23年度 資金収支計算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

(単位：円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,530,300,000	3,544,482,000	△14,182,000
手数料収入	72,100,000	94,324,510	△22,224,510
寄付金収入	20,000,000	16,754,400	3,245,600
補助金収入	350,100,000	364,796,581	△14,696,581
国庫補助金収入	346,000,000	364,194,000	△18,194,000
高槻市結核対策費補助金収入	100,000	102,581	△2,581
学術研究振興資金収入	4,000,000	500,000	3,500,000
資産運用収入	52,000,000	75,051,959	△23,051,959
資産売却収入	800,000,000	973,541,690	△173,541,690
事業収入	475,000,000	541,799,371	△66,799,371
雑収入	120,000,000	117,539,644	2,460,356
前受金収入	416,000,000	499,680,000	△83,680,000
その他の収入	242,614,000	251,598,189	△8,984,189
資金収入調整勘定	△653,500,000	△695,758,161	42,258,161
前年度繰越支払資金	2,184,212,000	2,328,620,080	
資金収入の部合計	7,608,826,000	8,112,430,263	△503,604,263

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,874,695,000	1,647,194,124	227,500,876
教育研究経費支出	896,546,000	791,301,860	105,244,140
管理経費支出	554,608,000	604,168,464	△49,560,464
借入金等利息支出	37,500,000	37,496,612	3,388
借入金等返済支出	544,500,000	711,080,000	△166,580,000
施設関係支出	47,400,000	15,490,728	31,909,272
設備関係支出	272,246,000	200,184,307	72,061,693
資産運用支出	800,000,000	703,523,386	96,476,614
その他の支出	233,270,000	270,146,434	△36,876,434
[予備費]	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△207,455,000	△206,677,746	△777,254
次年度繰越支払資金	2,535,516,000	3,338,522,094	△803,006,094
資金支出の部合計	7,608,826,000	8,112,430,263	△503,604,263

平成23年度 消費収支計算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	3,530,300,000	3,544,482,000	△ 14,182,000
手数料	72,100,000	94,324,510	△ 22,224,510
寄付金	20,000,000	20,671,522	△ 671,522
補助金	350,100,000	364,796,581	△ 14,696,581
国庫補助金	346,000,000	364,194,000	△ 18,194,000
高槻市結核対策費補助金	100,000	102,581	△ 2,581
学術研究振興資金	4,000,000	500,000	3,500,000
資産運用収入	52,000,000	75,051,959	△ 23,051,959
資産売却差額	1,500,000	24,511,914	△ 23,011,914
事業収入	475,000,000	541,799,371	△ 66,799,371
雑収入	120,000,000	117,539,644	2,460,356
帰属収入合計	4,621,000,000	4,783,177,501	△ 162,177,501
基本金組入額合計	△ 739,000,000	△ 822,709,566	83,709,566
消費収入の部合計	3,882,000,000	3,960,467,935	△ 78,467,935

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,829,385,000	1,601,638,704	227,746,296
教育研究経費	1,403,846,000	1,186,439,045	217,406,955
管理経費	618,308,000	655,341,792	△ 37,033,792
借入金等利息	37,500,000	37,496,612	3,388
資産処分差額	10,500,000	21,157,526	△ 10,657,526
[予備費]	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	3,919,539,000	3,502,073,679	417,465,321
当年度消費支出超過額	37,539,000	0	
当年度消費収入超過額	0	458,394,256	
前年度繰越消費収入超過額	117,004,000	230,319,414	
翌年度繰越消費収入超過額	79,465,000	688,713,670	

貸借対照表

平成24年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
固定資産	20,052,377,445	20,939,045,681	△ 886,668,236
有形固定資産	16,940,190,017	17,152,131,244	△ 211,941,227
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	5,711,555,680	5,944,910,943	△ 233,355,263
その他の有形固定資産	2,507,213,987	2,485,799,951	21,414,036
その他の固定資産	3,112,187,428	3,786,914,437	△ 674,727,009
流動資産	4,678,803,439	3,244,412,293	1,434,391,146
現金預金	3,338,522,094	2,328,620,080	1,009,902,014
その他の流動資産	1,340,281,345	915,792,213	424,489,132
資産の部合計	24,731,180,884	24,183,457,974	547,722,910

基本金の部			
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
第1号基本金	21,684,794,625	20,862,085,059	822,709,566
第3号基本金	85,000,000	85,000,000	0
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	21,970,794,625	21,148,085,059	822,709,566

消費収支差額の部			
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	688,713,670	230,319,414	458,394,256
消費収支差額の部合計	688,713,670	230,319,414	458,394,256

負債の部			
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
固定負債	1,116,925,869	1,595,791,289	△ 478,865,420
長期借入金	399,980,000	833,290,000	△ 433,310,000
その他の固定負債	716,945,869	762,501,289	△ 45,555,420
流動負債	954,746,720	1,209,262,212	△ 254,515,492
短期借入金	266,660,000	544,430,000	△ 277,770,000
その他の流動負債	688,086,720	664,832,212	23,254,508
負債の部合計	2,071,672,589	2,805,053,501	△ 733,380,912

負債・基本金・消費収支差額の部合計			
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
負債・基本金・消費収支差額の部合計	24,731,180,884	24,183,457,974	547,722,910

財産目録

平成24年3月31日

(単位：円)

I 資産総額 24,731,180,884
 内 基本財産 17,009,483,897
 運用財産 7,721,696,987

II 負債総額 2,071,672,589
 III 正味財産 22,659,508,295

区分	金額	
資産総額		
1 基本財産	17,009,483,897	
土地	59,259.53㎡	8,721,420,350
建物(付属設備を含む)	35,734.80㎡	5,711,555,680
図書	91,156冊 1,930本	1,349,539,347
構築物・機器備品	1,990点	1,153,469,156
その他		73,499,364
2 運用財産	7,721,696,987	
現金預金	3,338,522,094	
その他	4,383,174,893	
資産総額	24,731,180,884	

区分	金額	
負債総額		
1 固定負債	1,116,925,869	
長期借入金	399,980,000	
その他	716,945,869	
2 流動負債	954,746,720	
短期借入金	266,660,000	
その他	688,086,720	
負債総額	2,071,672,589	
正味財産(資産総額-負債総額)	22,659,508,295	

監事監査報告書

平成24年 5月18日

学校法人 大阪薬科大学
理事長 井上 通敏 殿

学校法人 大阪薬科大学 監事 露口 佳彦
監事 出水 順

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成23年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)における財産目録及び計算書類(貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書)を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

私たちは、監査にあたり、理事会及び評議員会に出

席し、理事から業務の報告を聴取し、会計監査法人と連携し、計算書類について検討を行うなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人大阪薬科大学の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。 以上

■平成24年度予算

平成24年度 資金収支予算書

平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	平成24年度予算	平成23年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	3,629,600	3,530,300	99,300
手数料収入	71,600	72,100	△ 500
寄付金収入	10,000	20,000	△ 10,000
補助金収入	255,600	350,100	△ 94,500
国庫補助金収入	254,000	346,000	△ 92,000
高槻市結核対策費補助金収入	100	100	0
学術研究振興資金収入	1,500	4,000	2,500
資産運用収入	52,700	52,000	700
資産売却収入	1,300,000	800,000	500,000
事業収入	504,000	475,000	29,000
雑収入	45,000	120,000	△ 75,000
前受金収入	413,900	416,000	△ 2,100
その他の収入	318,884	242,614	76,270
資金収入調整勘定	△ 521,500	△ 653,500	132,000
前年度繰越支払資金	3,216,087	2,184,212	1,031,875
資金収入の部合計	9,295,871	7,608,826	1,687,045

支出の部			
科目	平成24年度予算	平成23年度予算	増 減
人件費支出	1,741,972	1,874,695	△ 132,723
教育研究経費支出	1,019,384	896,546	122,838
管理経費支出	577,695	554,608	23,087
借入金等利息支出	11,600	37,500	△ 25,900
借入金等返済支出	266,700	544,500	△ 277,800
施設関係支出	46,030	47,400	△ 1,370
設備関係支出	83,207	272,246	△ 189,039
資産運用支出	1,800,000	800,000	1,000,000
その他の支出	285,540	233,270	52,270
[予備費]	20,000	20,000	0
資金支出調整勘定	△ 237,139	△ 207,455	△ 29,684
次年度繰越支払資金	3,680,882	2,535,516	1,145,366
資金支出の部合計	9,295,871	7,608,826	1,687,045

平成24年度 消費収支予算書

平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで

(単位：千円)

消費収入の部			
科目	平成24年度予算	平成23年度予算	増 減
学生生徒等納付金	3,629,600	3,530,300	99,300
手数料	71,600	72,100	△ 500
寄付金	10,000	20,000	△ 10,000
補助金	255,600	350,100	△ 94,500
国庫補助金	254,000	346,000	△ 92,000
高槻市結核対策費補助金	100	100	0
学術研究振興資金	1,500	4,000	2,500
資産運用収入	52,700	52,000	700
資産売却差額	900	1,500	△ 600
事業収入	504,000	475,000	29,000
雑収入	45,000	120,000	△ 75,000
帰属収入合計	4,569,400	4,621,000	△ 51,600
基本金組入額合計	△ 203,000	△ 739,000	536,000
消費収入の部合計	4,366,400	3,882,000	484,400

消費支出の部			
科目	平成24年度予算	平成23年度予算	増 減
人件費	1,702,072	1,829,385	△ 127,313
教育研究経費	1,413,684	1,403,846	9,838
管理経費	633,295	618,308	14,987
借入金等利息	11,600	37,500	△ 25,900
資産処分差額	2,500	10,500	△ 8,000
[予備費]	20,000	20,000	0
消費支出の部合計	3,783,151	3,919,539	△ 136,388
当年度消費支出超過額	0	37,539	
当年度消費収入超過額	583,249	0	
前年度繰越消費収入超過額	648,420	117,004	
翌年度繰越消費収入超過額	1,231,669	79,465	

学生相談室だより

学生相談室相談員 川端 康雄

新年度を迎え、はや数ヶ月が経とうとしていますが、学生の皆様は勉学やクラブ活動と忙しい日々をお過ごしのことと思います。季節の移ろいは本当に早いもので、新緑がまぶしく、爽やかな5月は過ぎ、ジメジメとした鬱陶しい季節となってしまいました。梅雨時は、気候や天候の影響からか、気分まで減入ってしまいやすく、「なんとなく体がダルい」「やる気が出ない」「ブルーな気持ちが続く」ということを経験された方も少なくないでしょう。

上述のような「やる気が出ない」「体がダルい」という症状は、「うつ感情」に由来するところがあるかもしれませんが。「うつ」と聞くと、何やら暗いイメージがあり、できるだけ感じない方がよい気分のような気がします。確かにこれらの気分は、楽しくなんかありませんし、明日への活力(!?)が湧いてくるようなことありません。しかし、心理学的に考えていくと、このネガティブな気分でさえ、時には役立つことがあると聞くと何か不思議な感じはしませんか？

感情は、「楽しい」「幸せ」などのポジティブ感情、「不安」「うつ」などのネガティブ感情に大別することができます。ポジティブ感情、ネガティブ感情には、それぞれ特有の認知スタイル(考え方)があることが知られています。ポジティブな感情は、物事を楽観的に歪めて認知するというパターンがあります。「見事、志望校に合格した!!」「好きな人とお付き合いすることができた!」などハッピーな気持ちになると、世の中がバラ色に見えるなんていうことばがあるように、世の中がいつもと違って見えることがあります。一方、ネガティブな感情には、物事をリアルに認知し、分析するという性質があります。「いよいよ試験が来週に迫ってきた~!」「彼女にふられてしまった…」などネガティブな気持ちになると自分の状況を分析し、自分に何が足りないのか、あるいは何がダメだったのかを分析し始めます。

これら2つの感情は、それぞれ適応的な側面と不適応な側面を有しており、まるでコインの表と裏のような関係にあります。一見すると、ポジティブ感情は、爽快な感じがあり、気分がハッピーになるので、不適応な側面はないような気がします。しかし、既にお話ししたように実際以上に情報を歪めたり、危険を過小評価する傾向があるので、大切な情報を見落としてしまう可能性があります。よく「ポジティブ・シンキング」ということばを見聞きすることがありますが、実はあまり多用しすぎると実際の状況を見誤る可能性があります、注意が必要です。

一方、ネガティブ感情は、通学を困難にしたり、対人関係が苦痛になったりするなど日常生活を妨げるという側面がありますが、適応的な側面もあります。それは現実を客観的に見ることができるといった側面です。うつ気分が変化せず、数週間続くと、うつ状態と呼ばれますが、一時的な抑うつ感情自体は多くの人を経験しており、珍しいものではありません。むしろ、自分の内面と向き合うことができ、こころの成長を促進させる側面があります。こころの成長の節目節目では、ほとんどといってよいほど、うつ感情が伴っていることが多いようです。

世界保健機関(WHO)が行った疾病負荷の将来予測によると、うつ病は2000年では総疾病の第4位であったのに対し、2020年には虚血性心疾患について第2位

になると予想されており、今後、大きな健康課題になると考えられています。我が国においても、うつ病の早期発見・早期治療が声高に叫ばれるようになり、様々な啓発事業が行われるようになりました。ただ、そのような風潮を反映してか、とかく「うつ感情」も含め、「うつ」は悪者扱いされてしまいやすく、安易に解消されることがよいとされることが多いような印象を受けます。

学生相談室は、「うつ病」や「うつ状態」といったところがSOSを発している状態だけではなく、ちょっとした「ブルー」な気持ちを感じ、「自分の内面と向き合いたい」ときにも、利用することができます。ちょっとした落ち込みやブルーな気持ちは、カラオケや飲み会などで発散させることもひとつの方法ですが、「うつ感情」の効用をうまく利用して、すこし立ち止まって自己分析し、こころの成長を試みるよい機会となるかもしれません。「エントリーシートに何を書いたらいいのか分からない!!」と就活直前に慌てて、自己分析するよりも、早いうちから心がけて進路や適性を考えておくのも有効な就活対策になるかもしれません。

そういえば、梅雨にも大切な役割がありましたね。この時期に雨がしっかり降ってくれないと、深刻な水不足の問題に陥るばかりか、秋に作物がうまく実らない可能性もあります。鬱陶しいジメジメは、作物にとっても人間にとっても、成長のためには大切な過程なのかもしれませんね。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー(専門の臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



小田佳子相談員
(木曜日担当)



川端康雄相談員
(火曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00~16:00

TEL：(072)690-1077(直通)

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



教員研究業績 (2011年)

(2011.1.1~12.31)

1. 研究学術論文

著者	標 題	掲 載 誌
山田剛司, 室賀康秀, 神野真旭, 梶本哲也, 宇佐美吉英, 沼田 敦, 田中麗子	New class azaphilone produced by a marine fish-derived <i>Chaetomium globosum</i> . The stereochemistry and biological activities	Bioorg. Med. Chem., 19, 4106~4113 (2011)
宇佐美吉英, 水木晃治	Stereostructure reassignment and determination of the absolute configuration of pericosine D ₁ by a synthetic approach	J. Nat. Prod., 74, 877~881 (2011)
宇佐美吉英, 市川隼人, 春沢信哉	Heck-Mizoroki reaction of 4-iodo-1 <i>H</i> -pyrazoles	Heterocycles, 83, 827~835 (2011)
春沢信哉, 藤井健介, 西浦昌慶, 荒木理佐, 宇佐美吉英, 他	Synthesis of imidazole C ₁ and C ₂ -ribonucleoside phosphoramidites for probing catalytic mechanism in ribozyme	Heterocycles, 83, 2041~2055 (2011)
市川隼人, 渡邊 龍, 藤野由依子, 宇佐美吉英	Divergent synthesis of withasomnines via synthesis of 4-hydroxy-1 <i>H</i> -pyrazoles and caisen rearrangement of their 4- <i>O</i> -allylethers	Tetrahedron Lett., 52, 4448~4451 (2011)
宇佐美吉英, 岡田雄介, 山田剛司	Natural pericosines B and C as enantiomeric mixtures: direct evidence by chiral HPLC analysis	Chirality, 23, E7~E11 (2011)
浦田秀仁, 山口瑛理子, 中村安成, 和田俊一	Pyrimidine-pyrimidine base pairs stabilized by silver(I) ions	Chem. Commun., 47, 941~943 (2011)
和田俊一, 津田浩和, 岡田てる美, 浦田秀仁	Cellular uptake of Aib-containing amphipathic helix peptide	Bioorg. Med. Chem. Lett., 21, 5688~5691 (2011)
浦田秀仁, 平田好宏, 田路貴子, 落合郁美, 赤木昌夫	ヘテロキラル DNA ダイマーの右巻きらせん形成能および RNA ダイマーとの比較	Viva Origino, 39, 49~54 (2011)
井上敦子, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Four novel furanocoumarin glucosides, candinosides A, B, C and D, from <i>Heracleum candicans</i> Wall	J. Nat. Med., 65, 116~121 (2011)
谷口雅彦, 井上敦子, 芝野真喜雄, 馬場きみ江, 他	Five condensed furanocoumarins from the root of <i>Heracleum candicans</i> Wall	J. Nat. Med., 65, 268~274 (2011)
芝野真喜雄, 谷口雅彦, 安田正秀, 馬場きみ江, 他	New microtubule polymerization inhibitors comprising a nitrooxy-methylphenyl group	Bioorg. Med. Chem., 19, 3995~4003 (2011)
岩永一範, 米田真司, 濱畑有記美, 宮崎 誠, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 掛見正郎	Inhibitory effects of furanocoumarin derivatives in Kampo extract medicines on P-glycoprotein at the blood-brain barrier	Biol. Pharm. Bull., 34, 1246~1251 (2011)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Xanthoangelols isolated from <i>Angelica keiskei</i> inhibit inflammatory-induced plasminogen activator inhibitor 1 (PAI-1) production	BioFactors, 37, 455~461 (2011)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Coumarins from the roots of <i>Peucedanum praeruptorum</i>	Zhonghua Zhongyiyao Zazhi, 26, 1995~1997 (2011) <中国語>
田中麗子, 辻井寛子, 山田剛司, 梶本哲也, 他	Conjugates of 3 α -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-1) and 3 β -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-2) as cancer chemopreventive agent	Eur. J. Med. Chem., 46, 3368~3375 (2011)
山田剛司, 室賀康秀, 神野真旭, 梶本哲也, 宇佐美吉英, 田中麗子, 他	New class azaphilone produced by a marine fish-derived <i>Chaetomium globosum</i> . The stereochemistry and biological activities	Bioorg. Med. Chem., 19, 4106~4113 (2011)
田中裕二, 山田剛司, 尹 康子, 梶本哲也, 田中麗子, 他	Absolute stereochemistry of andirolides A-G from the flower of <i>Carapa guianensis</i> (Meliaceae)	Tetrahedron, 67, 782~792 (2011)

著者	標 題	掲 載 誌
佐伯大祐, 山田剛司, 梶本哲也, 田中麗子, 他	A set of two diastereomers of cyanogenic glycosides from <i>Passiflora quadrangularis</i>	Nat. Prod. Commun., 6, 1091~1094 (2011)
田中麗子, 豊島美咲, 山田剛司	New lanostane-type triterpenoids, inonotsutriols D, and E, from <i>Inonotus obliquus</i>	Phytochem. Lett., 4, 328~332(2011)
梅永 優, 朴 翠順, 尹 康子, 石田寿昌, 友尾幸司	Identification and function of the second eIF4E-binding region in N-terminal domain of eIF4G: Comparison with eIF4E-binding protein	Biochem. Biophys. Res. Commun., 414, 462~467(2011)
福代 愛, 尹 康子, 石田寿昌, 友尾幸司	Structural scaffold for eIF4E binding selectivity of 4E-BP isoforms: crystal structure of eIF4E binding region of 4E-BP2 and its comparison with that of 4E-BP1	J. Pept. Sci., 17, 650~657(2011)
土井光暢, 他	Effect of one D-Leu residue on right-handed helical-L-Leu-Aib-peptides in the crystal state	J. Pept. Sci., 17, 420~426(2011)
土井光暢, 他	Screw-sense control of helical oligopeptides containing equal amounts of L-and D-amino acids	Chem. Eur. J., 17, 11107~11109(2011)
土井光暢, 他	Enantioselective epoxidation of α, β -unsaturated ketones catalyzed by stapled helical L-Leu-based peptides	Tetrahedron, 67, 6155~6165(2011)
浅野晶子, 山田剛司, 土井光暢	The square conformation of phenylglycine-incorporated ascidiacyclamide is stabilized by CH/ π interactions between amino acid side chains	Bioorg. Med. Chem., 19, 3372~3377 (2011)
土井光暢, 他	Conformational studies on peptides containing α, α -disubstituted α -amino acids: chiral cyclic α, α -disubstituted α -amino acid as an α -helical inducer	Org. Biomol. Chem., 9, 3303~3312 (2011)
土井光暢, 他	Design of a stabilized short helical peptide and its application to catalytic enantioselective epoxidation of (<i>E</i>)-chalcone	Tetrahedron Lett., 52, 798~801 (2011)
田中孝生, 佐藤卓史, 齊藤睦弘, 三野芳紀, 他	Adenosine thiamine triphosphate (ATHTP) inhibits poly (ADP-ribose) polymerase-1 (PARP-1) activity	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 57, 192~196 (2011)
東 剛志, 三野芳紀	Chemical degradation of polychlorinated biphenyls by the UV-Fe ²⁺ /Fe ³⁺ -H ₂ O ₂ system and its application for polychlorinated biphenyl-polluted electric insulating oil	J. Health Sci., 57, 442~447(2011)
東 剛志, 三野芳紀	硫酸を用いた低温・低 pH 条件における UV-Fe ²⁺ /Fe ³⁺ -H ₂ O ₂ 系による PCBs の化学分解	環境衛生工学研究, 25, 14~21(2011)
平田雅彦, 大桃善朗, 他	Evaluation of radioiodinated quinazoline derivative as a new ligand for EGF receptor tyrosine kinase activity using SPECT	Annal. Nucl. Med., 25, 117~124(2011)
福永理己郎, 他	Essential role for Mnk kinases in Type II interferon (IFN γ) -signaling and its suppressive effects on normal hematopoiesis	J. Biol. Chem., 286, 6017~6026(2011)
宮本勝城, 辻坊 裕, 他	Identification of genes, <i>desR</i> and <i>desA</i> , required for utilization of desferrioxamine B as a xenosiderophore in <i>Vibrio furnissii</i>	Biol. Pharm. Bull., 34, 570~574(2011)
宮本勝城, 辻坊 裕, 他	The <i>Vibrio parahaemolyticus</i> <i>pvuA1</i> gene (formerly termed <i>psuA</i>) encodes a second ferric vibrioferrin receptor that requires <i>tonB2</i>	FEMS Microbiol. Lett., 324, 73~79 (2011)
坂口 実, 松田隆志, 松村瑛子, 高岡昌徳, 他	Prolyl oligopeptidase participates in cell cycle progression in a human neuroblastoma cell line	Biochem. Biophys. Res. Commun., 409, 693~698(2011)
坂口 実, 他	Purification and characterization of 1,3- β -D-glucanase from <i>Eisenia foetida</i>	Carbohydr. Polym., 86, 271~276(2011)
坂口 実, 他	Purification and characterization of a new serine protease (EF-SP2) with anti-plant viral activity from <i>Eisenia foetida</i> : Analysis of anti-plant viral activity of EF-SP2	Process Biochem., 46, 1711~1716 (2011)
南 徳子, 藤森 功, 天野富美夫, 他	Regulatory role of cardiolipin in the activity of an ATP-dependent protease, Lon, from <i>Escherichia coli</i>	J. Biochem., 149, 519~527(2011)

著者	標題	掲載誌
天野富美夫, 他	Desulforubryerthrin from <i>Campylobacter jejuni</i> , a novel multidomain protein	J. Biol. Inorg. Chem., 16, 501~510 (2011)
藤森 功, 天野富美夫	Niacin promotes adipogenesis by reducing production of anti-adipogenic PGF _{2α} through suppression of C/EBPβ-activated COX-2 expression	Prostag. Oth. Lipid M., 94, 96~103 (2011)
藤森 功, 天野富美夫	Forkhead transcription factor Foxa1 is a novel target gene of C/EBPβ and suppresses the early phase of adipogenesis	Gene, 473, 150~156(2011)
小野真冬, 藤森 功	Antiadipogenic effect of dietary apigenin through activation of AMPK in 3T3-L1 cells	J. Agric. Food Chem., 59, 13346~13352 (2011)
末松那実子, 細田未紀, 藤森 功	Protective effects of quercetin against hydrogen peroxide-induced apoptosis in human neuronal SH-SY5Y cells	Neurosci. Lett., 504, 223~227(2011)
藤森 功, 他	Adipokine ganglioside GM2 activator protein stimulates insulin secretion	FEBS Lett., 585, 2587~2591 (2011)
上野聡之, 藤森 功	Novel suppression mechanism operating in early phase of adipogenesis by positive feedback loop for enhancement of cyclooxygenase-2 expression through prostaglandin F _{2α} receptor-mediated activation of MEK/ERK-CREB cascade	FEBS J., 278, 2901~2912(2011)
岩永一範, 米田真司, 濱畑有記美, 宮崎 誠, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場さみ江, 掛見正郎	Inhibitory effects of furanocoumarin derivatives in Kampo extract medicines on P-glycoprotein at the blood-brain barrier	Biol. Pharm. Bull., 34, 1246~1251 (2011)
宮崎 誠, 藤井俊樹, 武田伸弘, 孫谷弘明, 岩永一範, 掛見正郎	Chronopharmacological assessment identified GLUT4 as a factor responsible for the circadian variation of the hypoglycemic effect of tolbutamide in rat	Drug Metab. Pharmacokinet., 26, 503~515(2011)
車塚大輔, 北田研人, 松村靖夫, 他	Inhibitory effects of T/L-type calcium channel blockers on tubulointerstitial fibrosis in obstructed kidneys in rats	Urology, 77, 249. e9~e15(2011)
田和正志, 福本大起, 大喜多守, 山下直人, 松村靖夫, 他	Effects of exogenous big endothelin-1 on postischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in rat hearts	Hypertens. Res., 34, 218~224(2011)
北田研人, 由井 希, 小山真季, 木村公洋, 鈴木理恵, 田中亮輔, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Endothelin ET _B receptor is involved in sex differences in the development of balloon injury-induced neointimal formation	J. Pharmacol. Exp. Ther., 336, 533~539(2011)
田和正志, 福本大起, 大喜多守, 山下直人, 松村靖夫, 他	Contribution of nitric oxide in big endothelin-1-induced cardioprotective effects on ischemia/reperfusion injury in rat hearts	J. Cardiovasc. Pharmacol., 57, 575~578(2011)
小淵修平, 田中亮輔, 新谷拓也, 鈴木理恵, 筒居秀伸, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Mechanisms underlying the renoprotective effect of GABA against ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	J. Pharmacol. Exp. Ther., 338, 767~774(2011)
吉岡敏孝, 長谷川健一, 松村靖夫, 他	Inhalation of hydrogen gas attenuates left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in mice	Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 301, H1062~H1069(2011)
山本真也, 田中亮輔, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Preventive effect of GGsTop, a novel and selective γ-glutamyl transpeptidase inhibitor, on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	J. Pharmacol. Exp. Ther., 339, 945~951(2011)
大野行弘, 今木淳太, 前ゆかり, 高橋剛士, 多田羅絢加	Serotonergic modulation of extrapyramidal motor disorders in mice and rats: Role of striatal 5-HT ₃ and 5-HT ₆ receptors	Neuropharmacology, 60, 201~208 (2011)
大野行弘, 石原 静, 祖父江伸匡, 清水佐紀, 今奥琢士, 他	<i>Scn1a</i> missense mutation causes limbic hyperexcitability and vulnerability to experimental febrile seizures	Neurobiol. Dis., 41, 261~269(2011)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Effects of Gosha-jinki-gan (Chinese herbal medicine: Niu-Che-Sen-Qi-Wan) on hyperinsulinemia induced in rats fed a sucrose-rich diet	Drug Discov. Ther., 5, 181~184(2011)

著 者	標 題	掲 載 誌
田中一彦, 他	Curcumin and genistein additively potentiate G551D-CFTR	J. Cyst. Fibros., 10, 243~252(2011)
島本史夫, 田中早織, 幸田祐佳, 松村人志, 他	The regulation of ciliary beat frequency by ovarian steroids in the guinea pig Fallopian tube: interactions between oestradiol and progesterone	Biomed. Res., 32, 321~328(2011)
松村人志, 他	The genetic validation of heterogeneity in schizophrenia	Behav. Brain Funct., 7, 43(2011)
林 哲也, 吉岡敏孝, 長谷川健一, 松村靖夫, 他	Inhalation of hydrogen gas attenuates left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in mice	Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 301, H1062~H1069 (2011)
車塚大輔, 北田研人, 林 哲也, 松村靖夫, 他	Inhibitory effects of T/L-type calcium channel blockers on tubulo-interstitial fibrosis in obstructed kidneys in rats	Urology, 77, 249e9~249e15(2011)
林 哲也	ロサルタン/ヒドロクロロチアジド配合錠の早期血圧に及ぼす効果と安全性に関する北摂地区多施設共同研究 (SPEC study: Switch to the combination for Pre-target hypertensive patients, Evaluation of efficacy and safety Comparative study)	血圧, 18, 676~680(2011)
星野 満, 裕下ももか, 三馬女久美, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of cobalt (II) and cyanocobalamin with vanillinfluorone and its applications	Chem. Pharm. Bull., 59, 721~724 (2011)
星野 満, 神野伸一郎, 高田真吾, 伊集院裕美, 中西麻紀, 内藤雅人, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一	Determination of trace aluminum by fluorescence quenching with <i>m</i> -carboxyphenylfluorone as analytical reagent	Anal. Sci., 27, 659~662(2011)
星野 満, 山口敬子, 藤田芳一, 他	Improved spectrophotometric determination of total iron and iron (III) with <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein and their characterization	YAKUGAKU ZASSHI, 131, 1095~1101(2011)
星野 満, 神野伸一郎, 三谷将大, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of titanium with <i>o</i> -carboxyphenylfluorone in cationic micellar media, and its equilibrium and kinetic studies	Talanta, 85, 2339~2343(2011)
水野智樹, 藤本裕介, 星野 満, 藤本 剛, 山口敬子, 藤田芳一, 他	<i>N,N</i> -ジエチル- <i>p</i> -フェニレンジアミンを用いるピロロキノリンキノンの吸光光度定量	分析化学, 60, 599~602(2011)
加地真也, 富田真由, 星野 満, 神野伸一郎, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -スルホフェニルフルオロンを用いるマンガン(II)及び塩基性ポリアミノ酸の吸光光度定量	分析化学, 60, 619~627(2011)
富田真由, 加地真也, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一, 他	エオシンとガリウム(III)を用いるテトラサイクリン系抗生物質の吸光光度定量	分析化学, 60, 675~680(2011)
加藤貴大, 時吉 愛, 柏田侑亮, 宮地加奈子, 森山健三, 森本茂文, 浅野麻実子, 山口敬子, 藤田芳一	プロピレングリコールを用いるセロトニンの簡便かつ高感度な蛍光光度法	分析化学, 60, 685~689(2011)
藤田芳一, 他	地域がん診療連携拠点病院におけるがん臨床試験の質・量の向上をめざした取り組みーがん専門薬剤師とがん臨床試験データマネージャーによる全面的支援を實踐してー	癌と化学療法, 38, 1477~1482(2011)
恩田光子, 他	An empirical study of human resource management in community pharmacy: analysis of attitudes toward the job and the organization	The Journal of Japan Society for Health Care Management, 12, 177~185(2011)
富儀佳代子, 恩田光子, 荒川行生, 他	テキストマイニングを用いた妊娠・授乳中の服薬に対する不安についての分析	医療薬学, 37, 111~117(2011)

著者	標 題	掲 載 誌
恩田光子, 坪田賢一, 的場俊哉, 向井裕亮, 荒川行生, 他	「薬剤師による居宅療養管理指導」に対するケアマネージャーの理解度改善に関する研究	社会薬学, 29, 20~28(2011)
恩田光子, 庄司雅紀, 影林優一, 荻野 恵, 西田真由美, 荒川行生, 他	薬局における吸入指導の実態と薬剤師の役割	社会薬学, 30, 27~36(2011)
恩田光子, 中川明子, 我藤有香, 荒川行生, 他	保険薬局におけるスタッフの組織や職務に対する意識と安全意識の関連性に関する研究	医療の質・安全学会誌, 6, 3~21(2011)
恩田光子, 田中理恵, 坪田賢一, 的場俊哉, 向井裕亮, 荒川行生, 他	在宅ケアにおける薬剤師業務に対するケアマネージャーの情報収集手段及び意識・要望に関する調査研究	薬学雑誌, 131, 843~851(2011)
恩田光子, 他	保険薬局における後発医薬品への変更に対する患者意識調査	医薬品情報学, 12, 149~157(2011)
恩田光子, 荻野 恵, 西田真由美, 庄司雅紀, 影林優一, 荒川行生, 他	ステロイド吸入薬の服薬指導における薬局薬剤師の意識と指導内容との関連	医薬品情報学, 13, 119~124(2011)
山沖留美, 木村捷二郎, 他	Electron spin resonance characterization of radical components in irradiated black pepper skin and core	Radiat. Phys. Chem., 80, 1282~1288(2011)

2. 総説・解説

著者	標 題	掲 載 誌
芝野真喜雄	カンゾウを取り巻く最近の動向	薬用植物研究, 33, 7~9(2011)
芝野真喜雄, 他	グリチルリチン高含量個体の育成	BIO INDUSTRY, 28, 21~26(2011)
天野富美夫	SEp22, <i>Salmonella</i> Dps, a key molecule bearing both pathogenicity and resistance to environmental stresses in <i>Salmonella</i>	J. Health Sci., 57, 458~471(2011)
天野富美夫, 他	サルモネラの調理器具材への付着および洗剤による洗浄効果の評価法に関する研究	Bacterial Adherence & Biofilm, 24, 93~98(2011)
藤森 功	プロスタグランジンによる脂肪細胞分化制御の分子機構	日本応用酵素協会誌, 46, 1~12(2011)
掛見正郎	21世紀の医療を支える新しい薬剤師像の提案	Drug Magazine, 1, 49~53(2011)
掛見正郎	6年制下の病院・薬局実務実習の問題点	薬剤学, 71, 305~308(2011)
松村靖夫, 他	Pharmacology in health foods: preface	J. Pharmacol. Sci., 115, 459~460(2011)
大喜多守, 松村靖夫, 他	Pharmacology in health foods: improvement of vascular endothelial function by French maritime pine bark extract (Flavangenol)	J. Pharmacol. Sci., 115, 461~465(2011)
大喜多守, 松村靖夫, 他	循環器系疾患に対するフランス海岸松樹皮抽出物(フラバンジェノール®)の予防効果	Foods & Food Ingredients J. Jpn., 216, 221~226(2011)
大喜多守, 松村靖夫	エンドセリンと一酸化窒素	THE LUNG perspectives, 19, 64~68(2011)
北田研人, 大喜多守, 松村靖夫	Functional roles of endothelin ET _B receptor in the vascular disease and its sex difference	Mol. Cell Pharmacol., 3, 45~52(2011)
大野行弘	Therapeutic role of 5-HT _{1A} receptors in the treatment of schizophrenia and Parkinson's disease	CNS Neurosci. Ther., 17, 58~65(2011)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	ビビアント錠20mg	調剤と情報, 17, 763~773(2011)
浦嶋庸子, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	バイエッタ皮下注 5μgベン300, 10μgベン300	調剤と情報, 17, 899~907(2011)

著者	標 題	掲 載 誌
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	薬物の「副的作用」としてのQT延長	循環制御, 32, 17~21(2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第10回 呼吸(その1)	大阪府薬雑誌, 62, 29~38 (2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第11回 呼吸(その2)	大阪府薬雑誌, 62, 20~30(2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第12回 呼吸(その3)	大阪府薬雑誌, 62, 33~43 (2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第13回 意識(その1)	大阪府薬雑誌, 62, 55~66(2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第14回 意識(その2)	大阪府薬雑誌, 62, 35~43(2011)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第15回(完) 救急医療・災害医療とフィジカルアセスメント/バイタルサイン	大阪府薬雑誌, 62, 39~50(2011)
山口敬子, 他	溶液を用いる分光分析のための前処理法	第58回機器による分析化学講習会テキスト (2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×OTC(vol.1) ワーファリンとザ・ガード, このまま出して, 大丈夫?	Credentials, 29, 1~2 (2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×etc.(vol.2) レニベース錠とアミールS, このまま出して, 大丈夫?	Credentials, 31, 39~40(2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×etc.(vol.3) 下がらない血圧と胃の不調に困っているNさん。あなたならどのように対応しますか?	Credentials, 3, 31~32(2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×etc.(vol.4) ワーファリン錠とユベラックス, このまま出して, 大丈夫?	Credentials, 35, 43~44(2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×etc.(vol.5) グルコバイと「グルコケア粉末スティック」, このまま出して大丈夫?	Credentials, 37, 51~52(2011)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品×etc.(vol.6) 血圧が下がらない事に困って, 「ナチュラルケアタブレット」を摂取しているNさん。あなたならどのように対応しますか?	Credentials, 39, 37~38(2011)
恩田光子	薬学教育6年制とこれからの展望, 今後の臨床薬学教育に関する一考察	医薬ジャーナル, 47, 69~73(2011)

3. 紀要・翻訳

著者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 小川由香, 芝野真喜雄	Evaluation on biological activity of highly functionalized synthetic cycloalkenoids; trichodenone and pericosine analogues	大阪薬科大学紀要, 5, 27~33(2011)
藤嶋美穂代, 春沢信哉	イミダゾールC-ヌクレオシドホスホロアミダイトのマススペクトル測定の実際	大阪薬科大学紀要, 5, 49~57(2011)
宇佐美吉英, 芝野真喜雄, 他	Evaluation on biological activity of highly functionalized synthetic cycloalkenoids; trichodenone and pericosine analogue	大阪薬科大学紀要, 5, 27~33(2011)
芝野真喜雄, 他	生薬・甘草の国内生産を目指して(総説)	大阪薬科大学紀要, 5, 59~68(2011)
鳥本龍磨, 岩永一範, 宮崎 誠, 掛見正郎	リポソーム製剤が併用薬物の体内動態におよぼす影響について	大阪薬科大学紀要, 5, 35~47(2011)

著者	標 題	掲 載 誌
山口敬子, 藤田芳一	三元錯体生成反応系を利用する生体関連物質の吸光光度定量法の開発に関する研究(総説)	大阪薬科大学紀要, 5, 85~100(2011)
森本茂文, 田伏克惇, 藤田芳一	がん化学療法におけるバイオマーカーの探索に関する研究(総説)	大阪薬科大学紀要, 5, 111~129(2011)
藤嶋美穂代, 春沢信哉	イミダゾール C-ヌクレオシドホスホロアミダイトのマススペクトル測定の実際	大阪薬科大学紀要, 5, 49~57(2011)
楠瀬健昭	An invitation to literature	大阪薬科大学紀要, 5, 21~23(2011)
楠瀬健昭	土壌という世界—レイチェル・カーソン『沈黙の春』第五章	とい, 30, 6~8(2011)
スミス下野	2010年度英語プレゼンテーション・スキル養成講座実施報告	英米研究(大阪大学英米学会), 35, 13~27(2011)

4. 著 書

著者	標 題	出 版 社
春沢信哉, 他	有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成	廣川書店(2011)
福永理己郎	ヒトの分子遺伝学 第4版 Chapter 10 モデル生物, 比較ゲノム学, 進化	メディカル・サイエンス・インターナショナル, 337~392(2011)
高岡昌徳, 他	日本薬学会 編 スタンダード薬学シリーズ4, 生物系薬学IV, 演習編	東京化学同人, 17~18(2011)
天野富美夫	『食品衛生学「食の安全の科学」(改訂第2版)』第4章 食品の微生物などによる汚染と健康被害	南江堂, 99~145(2011)
天野富美夫	『21世紀の考える薬学微生物学 第3版』(池澤宏郎 編) 第8章 バイオハザードと遺伝子組換え実験	廣川書店, 473~495(2011)
掛見正郎	生物薬剤学 第3章 薬動学—ファーマコキネティクス—	朝倉書店, 108~201(2011)
掛見正郎	第16改正日本薬局方 解説書 一般試験法 6.09崩壊試験法	廣川書店, B585~B594(2011)
掛見正郎, 宮崎 誠	広義 薬物動態学 難解複合問題100選	京都廣川書店(2011)
掛見正郎	わかりやすい物理薬剤学 第5版 第9章 ドラッグデリバリーシステム	廣川書店(2011)
大野行弘	「セロトニン神経系と認知機能」精神疾患と認知機能—最近の進歩—	新興医学出版, 85~95(2011)
河合悦子	「スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学IV演習編」	東京化学同人, 38~40(2011)
恩田光子, 他	Developing pharmacy practice -A focus on patient care-HAND BOOK-2006 Ed. World Health Organization, International Pharmaceutical Federation 薬剤師業務のさらなる展開—患者中心のケアを目指して—2006年版ハンドブック	メディカルドゥ(2011)
恩田光子, 他	詳説 薬剤経済学—限られる社会資源から最高の医療を	京都廣川書店(2011)
恩田光子, 他	これだけは知っておきたい61の法律	金芳堂(2011)
スミス下野, 他	動詞&形容詞活用帳	大阪大学大学院工学研究科・工学部 国際交流室留学生相談部(2011)
スミス下野, 他	アルクネットアカデミー2: ライフサイエンス英語コース	アルク(2011)
土井 勝	薬学のための物理学入門	日科技連出版社(2011)

総務課

■ 人 事

<大学関係>

採用(平成24年4月1日付)

教授 戸塚 裕一

教授(特任) 長船 芳和

教授(特任) 出開 豊子

准教授 阪本 恭子

助手(嘱託職員) 東 剛志

事務職員(嘱託職員) 樽井 康員

事務職員 福榎 敬二

学校法人大阪薬科大学附属薬局特別研修薬剤師

村上 貴恵

(平成24年5月1日付)

事務職員 垣貫 健

退職(平成24年3月31日付)

学長 千熊 正彦

教授 土井 勝(定年)

教授 石田 寿昌(定年)

教授 掛見 正郎(定年)

准教授 安田 正秀(定年)

事務局長 田部 信重(定年)

学校法人大阪薬科大学附属薬局薬局長

真下 博孝(定年)

任用(平成24年4月1日付)

学長 藤田 芳一

昇任(平成24年4月1日付)

准教授 岩永 一範

准教授 芝野真喜雄

准教授 藤森 功

准教授 大喜多 守

准教授 尹 康子

講師 山口 敬子

講師 浅野 晶子

講師 加藤 隆児

事務局長 秋月 延夫

学校法人大阪薬科大学附属薬局薬局長

小川 賀偉

係長 藤原 昭男

係長 清水 信行

主任 前野 真徳

併任(平成24年1月1日付)

共同研究センター長 天野富美夫(教授)

(平成24年4月1日付)

キャリアサポート部長 天野富美夫(教授)

図書館長 高岡 昌徳(教授)

研究委員長 土井 光暢(教授)

共同研究センター長 浦田 秀仁(教授)

特別管理産業廃棄物管理責任者

佐藤 卓史(講師)

(平成24年4月12日付)

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

戸塚 裕一(教授)

芝野真喜雄(准教授)

藤森 功(准教授)

大喜多 守(准教授)

尹 康子(准教授)

大学院博士前期課程指導教員

山口 敬子(講師)

浅野 晶子(講師)

加藤 隆児(講師)

(平成24年4月18日付)

学校法人大阪薬科大学附属薬局防火管理者

小川 賀偉(附属薬局薬局長)

委嘱(平成24年4月1日付)

教授 加藤 義春(嘱託)

教授 馬場きみ江(嘱託)

教授 土井 勝(嘱託)

教授 掛見 正郎(嘱託)

校医及び産業医 柚木 孝仁(非常勤)

学生相談室顧問 米田 博(非常勤)

学生相談室相談員 小田 佳子(非常勤)

川端 康雄(非常勤)

配置換え(平成24年4月1日付)

高橋 嘉明 総務課課長補佐から入試課課長補佐

手島 尚 経理課課長補佐から総務課課長補佐

鶴田 政樹 入試課係長からキャリアサポート課係長

中村 達也 総務課係長から経理課係長

前野 真徳 施設課事務職員から教務課主任

客員研究員(平成24年5月1日付)

田伏 克惇

中張 隆司

招へい教授(平成24年5月1日付)

田伏 克惇

共同研究センター長の併任を解く

(平成24年3月31日付)

天野富美夫(教授)

施設課長及び情報システム管理支援室長の兼務を解く

(平成24年3月31日付)

秋月 延夫

非常勤講師

(前期：平成24年4月1日付)

<学部>

阿比留 平 (医薬品開発学)
 伊藤 信也 (人間と文化4b(女性学)、異文化言語演習1)
 井上 径子 (英語1)
 神竹 道士 (ドイツ語1)
 桑田 成規 (医療情報学)
 武内 徹 (免疫学)
 谷口 智美 (フランス語1)
 鶴 真一 (フランス語4、人間と文化4a(人間と宗教))
 寺田多一郎 (医薬品開発学)
 東井 孝之 (異文化言語演習1、実践ビジネス英語、
 薬学英語1)
 朝野 和典 (臨床感染症学)
 中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語4、異文化言語演習1)
 中本 剛二 (異文化言語演習1)
 中元 安雄 (調剤学実習)
 橋口 雅美 (健康科学演習1)
 樋口 久 (英語1)
 人見 滋樹 (臨床導入実習)
 藤岡 重和 (臨床生理学)
 藤本 幸治 (異文化言語演習1)
 藤原 英明 (医用工学概論)
 榎矢 桂一 (ドイツ語1、異文化言語演習1)
 松村 泰志 (医療情報学)
 三木原 浩 (人間と文化1(人間と文学・芸術))
 森山 健三 (東洋医学概論)
 和田 晋一 (臨床生理学)
 和佐 勝史 (臨床栄養学)
 Joseph Michael Jacobs (英語3)
 Ian Murray Richards (英語3)

非常勤助手

宮田 真希 (健康科学演習1)
 門川 裕美 (健康科学演習1)

<法人関係>

理事・評議員退任 (平成24年3月31日付)
 千熊 正彦
 評議員退任 (平成24年3月31日付)
 石田 寿昌
 理事就任 (平成24年4月1日付)
 藤田 芳一
 常務理事就任 (平成24年4月1日付)
 田部 信重
 評議員就任 (平成24年4月1日付)
 浦田 秀仁
 秋月 延夫

評議員就任 (平成24年5月1日付)

松島 哲久

■海外出張

辻坊 裕 教授 (微生物学研究室)
 宮本 勝城 准教授 (微生物学研究室)
 <出張期間：平成24年3月28日～3月30日>
 招待講演 (中国)
 松村 人志 教授 (薬物治療学研究室)
 <出張期間：平成24年4月20日～4月27日>
 実験生物学学会 (アメリカ)
 大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)
 <出張期間：平成24年6月2日～6月9日>
 国際神経精神薬理学会 (スウェーデン)

■慶 弔

<訃報>

齊藤 徳男 元教授 (平成24年2月逝去)
 酒井 清 名誉教授 (平成24年2月19日逝去)
 松村 瑛子 元教授 (平成24年5月7日逝去)

■防災訓練

平成23年12月6日(火)に高槻市北消防署員立会のもと防災訓練が実施されました。正午にD棟2階一般製剤室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、講義中の学生を含め、消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練が行われました。避難完了後、学生に対し、楠瀬防火・防災管理者より注意喚起を含めた挨拶が行われました。

■実験動物慰霊祭

平成23年12月7日(水)12時20分よりC105講義室において教職員及び学生280名余が参列して、実験動物慰霊祭が厳粛に執り行われました。

始めに参列者全員で黙祷を行った後、千熊学長から挨拶と本学の教育研究に貢献した実験動物に対する感謝と慰霊の辞が述べられました。

次に、掛見教授(動物関連研究施設運営委員長)から実験報告と今後の実験計画についての説明があり、続いて、安田准教授(動物関連研究施設管理責任者)から動物関連研究施設の利用現状について報告がありました。

また、この動物慰霊祭に合わせて、松島教授(研究倫理審査委員長)から「動物実験の3Rの原則」(数の削減、苦痛の軽減、代替法の適用等)、「動物実験の倫理」について講演が行われました。

最後に参列者全員が献花を行い、閉式いたしました。

■平成23年度学位記授与式を挙

平成24年3月17日(土)10時30分より、体育館において平成23年度学位記授与式が挙行されました。

多くの参列者が見守る中、卒業生234名、修了生14名に学位記が授与されました。



■平成24年度入学式を挙

平成24年4月2日(月)10時30分より、体育館において平成24年度入学式が挙行され、学部生353名、大学院生16名が入学し、多くの参列者が新しい門出を祝福しました。



平成24年度 科学研究費補助金採択状況

(課題番号順)

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)
継続	准教授	藤森 功	新学術領域研究	プロスタグランジン類およびそれらの代謝物による代謝疾患制御	3,100	930
	教授	福永理己郎	新学術領域研究	造血細胞の増殖・分化を制御するクロマチン構造変換の分子機構の解明	1,800	540
	教授	春沢 信哉	基盤研究(C)	リボザイムの機能解明と乳糖抑制作用を持つイミダゾールC-ヌクレオシドの合成	600	180
	准教授	友尾 幸司	基盤研究(C)	新規抗がん剤開発のための翻訳開始因子4Eの機能制御物質の探索	1,000	300
	教授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	800	240
	講師	佐藤 卓史	基盤研究(C)	ピラゾール型架橋配位子を有する錳電荷白金二核錯体の制がん活性発現機構の解明	500	150
	教授	大野 行弘	基盤研究(C)	脳アストロサイトのカリウム緩衝機能に着目したてんかん病態研究	1,000	300
	准教授	和田 俊一	基盤研究(C)	膜透過性 Aib 含有ペプチドの核酸医薬への応用	900	270
	教授	戸塚 裕一	若手研究(B)	複数の投与経路に適合可能な機能性有機ナノコンポジットの開発	900	270
	* 准教授	山田 剛司	基盤研究(C)	海洋生物由来菌類の産生する抗がん剤のシーズの探索及びリード化合物の開発	800	240
	* 准教授	井上 晴嗣	基盤研究(C)	LRG ノックアウトマウス解析による新規シグナル分子としてのシトクロムCの役割	1,000	300
	* 准教授	大喜多 守	基盤研究(C)	一酸化窒素産生を絶対的に支配するエンドセリン-1およびその受容体の意義	1,100	330
	* 助教	平田 雅彦	基盤研究(C)	EGF シグナル阻害による癌治療計画の支援システム構築を目指した新規診断薬の開発	900	270
	* 助教	河野 広朗	若手研究(B)	深海環境に生息する微生物資源を利用した抗ウイルス活性の探索	1,300	390
新規	* 教授	浦田 秀仁	基盤研究(C)	金属錯体型塩基対のDNAポリメラーゼによる認識	1,600	480
	* 准教授	宮本 勝城	基盤研究(C)	海洋細菌のキチン分解機構に関する網羅的解析	2,500	750
	* 教授	福永理己郎	基盤研究(C)	Mnk プロテインキナーゼによる翻訳調節を介した細胞増殖制御機構の解明	1,900	570
	* 教授	天野富美夫	基盤研究(C)	サルモネラ新規病原性関連因子SeP22の発現を誘導する栄養因子に関する研究	2,300	690
	* 准教授	恩田 光子	基盤研究(C)	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的效果に関する研究	1,700	510
	* 助手	中川 治	若手研究(B)	細胞内還元環境に反応して活性化する siRNA 創薬の開発	1,800	540
*は、学術研究助成基金助成金					20件	8,250



退職記念パーティーでご挨拶される千熊前学長。
平成24年3月19日(月)
於：学生ラウンジ



パーティー会場



ご退職の教職員の方々

■退職記念パーティーを開催

平成24年3月19日(月)学生ラウンジにおいて、平成23年度末をもって退職される教職員8名の方々の退職記念パーティーを開催しました。

当日は100余名の教職員が参加し、終始和やかな雰囲気の中、思い出を語り合い、退職される方々へ感謝の意を表し、今後のご活躍とご健康と祈念して閉会となりました。

■財団法人大学基準協会から認定を受けました

我が国の大学は、教育研究の総合的な状況について、文部科学大臣の認証を受けた評価機関から認証評価を7年以内の期間ごとに受けることが義務づけられていますが、このたびは、財団法人大学基準協会による認証評価の結果、「大学基準に適合している」と認定されました。

認定期間：平成24年4月1日～
平成31年3月31日



的としています。本学においては平成24年度は準備期間となりますが、今後がん専門薬剤師を養成するためのコースを創設する予定です。

■小学生が社会見学に訪れました

本学では、近隣小学校の「総合的な学習の時間」を支援する取り組みとして、小学生の社会見学を積極的に受け入れています。本年は平成24年6月4日(月)に阿武山小学校3年生児童約50名が本学を訪れました。

日焼けした元気いっぱいの子供たちは、生体防御研究室・天野教授の協力のもと、細胞の培養実験や中央機器研究施設の大型機器などを見学しましたが、中でも研究室の嚴重に鍵がかかった保管庫にズラリと並んだたくさんの薬品の瓶に興味津々の様子でした。

「どうして葉っぱは落ちるんだろう？、どうして腐るんだろう？」といった日常の中での何気ない「？」から研究が始まるという天野教授からの話を子供たちは神妙な顔で聞き入っていました。この見学がきっかけとなって、子供たちが科学に興味を持ち、将来的に大阪薬科大学への進学に繋がれば……と思ひながら、今年も見学会が終了しました。



たくさんの方に興味津々の



低温室にも順番に入って実体験

■附属薬局第11回健康講座を開催

恒例となっている学校法人大阪薬科大学附属薬局健康講座を平成24年2月18日(土)に開催しました。

今回は「加齢に伴う目の病気：白内障・加齢黄斑変性」をテーマに大阪大学大学院医学系研究科・坂口裕和助教にご講演をお願いしました。

■「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択

このたび、大阪大学が京都府立医科大学、兵庫県立大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、神戸薬科大学、大阪薬科大学の6大学を連携校として申請した文部科学省平成24年度「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」が採択されました。この事業は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目

キャリアサポート課

「私たちの経験はすべて後輩へ」

本年3月に本学を卒業した薬学6年制の最初の卒業生たちは、自分たちが体験した就職活動の極意を積極的に在学生へ伝授しました。

薬学が4年制から6年制となり、大学としての大きな変革期を迎えました。この変革期においては前年度までの就活パターンを踏襲することができず、しかも

内定者ライブトーク（ここだけの話です）

前年、5年次生用の就活冊子「めでいしーん VOICE 2013」誌面にて7名の6年次生が後輩に向けて自身の就活体験を語りました。その7名が、誌面上では伝えきれなかった内容を約150名の5年次生に向けてライブトークとして直接語ってくれました。

話題は、応募先へのエントリー時期、選考内容、筆記試験対策まで多岐に渡ります。そして後半には、後輩側からの様々な質問に対して自分たちの経験をもとにした具体的なアドバイスや提案がなされ、熱い本音トークが繰り広げられました。

ライブトーク(写真)は当時キャリアサポート部長であった藤田学長が



就活冊子「めでいしーん VOICE 2013」



ライブトーク

本学は就職活動に臨む5年次生全員が3月まで臨床実務実習に参加するという特殊な環境でした。その環境下で行われた6年制の1期生の就活は、まさに海図なき航海のようでした。厳しい環境のもと戦い抜いた6年次生がその貴重なノウハウを、積極的かつ自主的に後輩たちへ語りました。

参加される中、キャリアサポート課の進行で実施しましたが、学生の要望により予定時間をはるかに延長して実施することになりました。その結果、多くの参加者にとって非常に充実した時間となり、先輩から後輩たちへ、熱い思いは受け継がれたと確信しています。

先輩からの置き土産（明日やろうは ばかやろう！）

この企画に刺激を受けて、某外資系企業に就職が決まった一人の6年次生が、自分達が卒業する前にさらにこれだけは伝えたいという思いからこの新たな企画がスタートしました。この気持ちに賛同した複数の学

生が集まり、各業界別に就職活動内容のプレゼンテーションとブース形式による質疑応答が行われました。最初から最後まであくまで自分たちが手作りでを行い、キャリアサポート課が後ろから応援しました。この企画には約200名の後輩が参加してこちらも予定時間をオーバーして後輩達との質疑応答が続きました。



各業界別に就職活動内容のプレゼンテーション



約200名が参加。予定時間オーバーで質疑応答が続く。

キャリアサポート課 コメント

就職活動を行う上で大きな参考となるのが、同じ大学の先輩の活動経験です。今回のような学生の自主的な企画は我々が年間を通して行うサポート活動と共に極めて就職活動を行う学生にとって重要なイベントとなります。4年制から6年制への変革期における学生の自主的な企画は本学の中に確かに100年の伝統が受け継がれていると確信する出来事でした。

就職活動は、「知識より意識」です。

経 理 課

平成25年度 納付金について

<薬学部納付金>

◎ 薬 学 科 (6年制)

区 分	初 年 度			2年次以降			
	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計	
入 学 金	400,000円	—	400,000円	—	—	—	
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施 設 ・ 設 備 費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	300,000円	600,000円
合 計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円	

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。

※校友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、校友会入会金1,000円(初年度のみ)、校友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、校友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

◎ 薬科学科 (4年制)

区 分	初 年 度			2・3年次			4年次			
	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計	
入 学 金	400,000円	—	400,000円	—	—	—	—	—	—	
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円	500,000円	500,000円	1,000,000円
	施 設 ・ 設 備 費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	300,000円	600,000円	250,000円	250,000円	500,000円
合 計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円	750,000円	750,000円	1,500,000円	

※校友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、校友会入会金1,000円(初年度のみ)、校友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、校友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

<大学院 薬学研究科 納付金>

◎薬学専攻博士課程(4年制)、薬科学専攻博士前期課程(2年制)・博士後期課程(3年制) (共通)

区 分	前 期	後 期	年 額 計
入学金(初年度) 本学卒業生は免除	300,000円	—	300,000円
授業料	300,000円	300,000円	600,000円

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円(年額)があります。

なお、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。

納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となりますので、ご留意ください(学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条参照)。

納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

学生課

平成 24 年度 学友会執行委員会

執行委員長	海野真美	柔道部
副執行委員長	流川美穂	ハンドボール部
総務局長	日笠史子	バスケットボール部
厚生局長	中塚侑吾	ソフトテニス部
広報渉外局長	濱田愛乃	E. S. S. 部
体育局長	中田賢	バレーボール部
文化局長	井上貴華	バスケットボール部

平成 24 年度 大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	安田大佑	テニスサークルレポリューション
大薬祭副実行委員長	榊本有季	フィールドウォーカーズ部
総務部長	日笠史子	バスケットボール部
イベント部長	成尾侑紀	バドミントン部
リサイタル部長	香川祐哉	軽音楽部
装飾部長	島崎頼子	美術部
渉外部長	八木千聖	茶道部
渉内部長	菅原孝史	ハンドボール部

大薬祭「HERO～of the HERO, by the HERO, for the HERO～」が開催されます

本年度の大薬祭は、

「HERO～of the HERO, by the HERO, for the HERO～」をテーマに、平成 24 年 11 月 2 日(金)～11 月 4 日(日)の日程で開催されます。

当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大薬祭の定番となっている「薔薇祭」や、リサイタルなど様々なイベントが行われる予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。

～～～ 安田大薬祭実行委員長からのメッセージです ～～～

「今年のテーマは“HERO”です。“一人ひとりが主役”をコンセプトに様々なイベントをご用意いたします。ぜひご参加ください。」

敷地内全面禁煙始まる！



全面禁煙の啓発ポスター

約 2 年の準備期間を経て、4 月 1 日から本学は全面禁煙を開始しました。学内の一部に喫煙場所を設ける分煙方式も検討にのりましたが、医療系の大学であることから、敷地内全面禁煙が採用されました。大学近隣では、住宅地や小学校などがありますので、灰皿が設置されていて喫煙が認められている場所以外での喫煙も学内同様に禁止しています。

大部分の学生は喫煙習慣がないので、この措置は歓迎されています。他人の副流煙による被害を受けない Smoke-free Campus を皆の努力で続けていきましょう。

喫煙習慣のある方をお願いします。住宅地での喫煙に対しては、副流煙が窓から入ってくる、吸い殻やゴミが散乱している、複数人がたむろして喫煙する姿は怖い(コンビニ前でたむろする若者と同じように)、小学生の子供の帰り道なので迷惑だ、などの苦情が住民から届いています。自分ではいいだろうと勝手に思っている、大学周辺は生活の場であり、このような行為は不快に感じられていることに気づいてください。道路での歩きタバコは大きなマナー違反であることも成人として心得てください。

新入生交流・導入教育について

新入生の大学への定着を図ることを目的として、毎年 6 月下旬までの期間にアドバイザー単位で新入生交流・導入教育を実施しています。アドバイザーを交えて新入生同士で企画を考え、今年も様々なプランが立てられ実行されました。

プランの一番人気は「会食」。楽しく食事をとりながら、これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受れたり、新入生同士の交流が図られたことと思います。その他のプランとしては、「ボウリング」「サントリー山崎蒸留所」「ユニバーサルスタジオジャパン」「京都水族館」「バーベキュー」「野球観戦」などが行われました。参加した学生からは、「アドバイザーと話ができて楽しかった」「食事をしながら友だちともたくさん話できてとてもよかった」「予想していたよりずっと楽しかった」などの声が届きました。



いずれも公式ホームページから引用。

五月祭（新入生歓迎会）が開催されました

恒例の五月祭（学友会主催）が平成24年5月11日（金）に体育館で開催されました。

第1部では、怪音楽部、フォークソング部、アンサンブル同好会による演奏や、コーラス部、ダンスサークルによるステージ、アドバイザー単位でのクイズ大会などがあり、第2部では全学年でのビンゴ大会が行われました。今年は、旅行券やゲーム機（3DS）、マンガ全巻セット（るろうに剣心）、デジタルフォトフレーム、ヘッドフォン（BOSE）など、豪華な景品が用意され、大いに盛り上がりました。



五月祭での演奏ステージ

学生間はもちろん、教職員との交流を深める良い機会となったのではないのでしょうか。

健康管理支援室から

最近、授業やクラブ活動での運動による捻挫・靭帯損傷等のスポーツ外傷が目立ちます。

ケガの大小に関わらず、応急処置後は医療機関を受診し適切な治療を受けてください。

★**捻挫**～関節の可動範囲を超えたときに起こる損傷で、関節周辺の軟部組織（関節包や靭帯等）の損傷を伴います。

≪一般的に、捻挫は1～3度に分類できます≫

★[Ⅰ度の捻挫] ⇒関節周辺靭帯の明らかな損傷を伴わないもの。症状は損傷部位の軽度の腫れや靭帯を伸張させると痛みはあるが関節の不安定性はない。

★[Ⅱ度の捻挫] ⇒靭帯の部分的断裂を伴う損傷。症状は損傷部位の腫れが生じ、皮下出血を伴う。靭帯を伸張させると強い痛みがあり、関節の軽度の不安定性があるが靭帯の連続性は保たれている。

★[Ⅲ度の捻挫] ⇒靭帯の完全断裂でギブス固定や手術が必要になります。症状は損傷部位の強い腫れと皮下出血が生じ、関節の不安定性が出現する。

＊捻挫でも靭帯を損傷していれば損傷部位を限局して[靭帯損傷]という場合もあります。

＊靭帯損傷を捻挫とはいいません。

≪スポーツで損傷することが多い部位≫

肩⇒肩関節の脱臼・骨折

上肢⇒肘関節の亜脱臼、内側側副靭帯損傷、骨折

下肢⇒前・後十字靭帯損傷、半月板損傷、内・外側側副靭帯損傷

足首⇒前距腓靭帯損傷

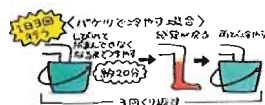
≪応急処置≫ RICE療法が基本です。

R（REST＝安静にする）

I（ICING＝冷やす）

C（COMPRESSION＝圧迫する）

E（ELEVATION＝高く上げる）



＊ICINGの必要性～損傷した患部周辺の新陳代謝を下げることにより、組織の中への血液や細胞液の流出を防ぎ、痛み、腫れ、内出血を抑え、組織の壊死を最小限に抑える。

＊ICINGの方法～氷水に患部を直接入れて冷やす。氷袋・保冷材・アイスパックを患部にあてる。

（注意事項）

- 1、患部に直接あてて冷やす場合、冷え過ぎないようにタオルなどを間に使い、凍傷に気をつける。
- 2、一回の冷却時間は20分を目安に、しびれて感覚がなくなったら中止し、時間を置いて再び冷却する。
- 3、コールドスプレーは表面のみ冷えますが内部までは冷えていません。皮膚表面の凍傷に気をつける。

≪スポーツによるケガを予防するには≫

＊基本的な準備体操をして身体をほぐしてから十分にストレッチやウォーミングアップをしてください。

＊運動後は整理体操（クーリング・ダウン）を行って、筋肉内に蓄積した疲労物質を取り、筋肉の回復を早めさせてください。

準備体操
・腹筋や腰の屈伸運動・上肢/下肢の屈伸運動・伸脚
・首や肩周辺の屈伸・回転運動
・各関節の伸展・屈曲・回転体操



【予防は治療に勝る】といわれるように、思わぬケガの重症化を防ぐことができます。

〈参考資料〉セルフドクターネット、運動スポーツ百科 等

入 試 課

■ オープンキャンパス2012

開 催 日：平成24年 3月31日(土)
 参 加 者 数：180名
 プログラム：学部学科説明
 入試概要・就職状況
 キャンパスツアー・個別相談
 夏の開催日：平成24年 7月31日(火)／8月 4日(土)／
 8月18日(土)
 秋の開催日：平成24年10月 6日(土)
 春の開催日：平成25年 3月23日(土)



OPEN CAMPUS 2012のポスター
 夏季に3回、秋・春(2013)各
 1回の5回開催されます。
 JR「摂津富田」駅・阪急「富田」
 駅から無料直行バスを運行。
 詳細はHPで確認してください。

■ 平成24年度入学試験結果

■ 大阪薬科大学入学試験結果

入 試 種 別	公 募 制 推 薦 入 試 (S方式)	一 般 入 試 I (F方式)	一 般 入 試 II (G方式)	セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試 (C方式)	後 期 セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試 (M方式)	別 国 生 徒 特 別 選 抜 入 試 (K方式)	編 入 入 試 (H方式)編入 2年次編入	編 入 入 試 4年次編入
募 集 人 員	80	70	80	20	10	若干名	5	若干名
志 願 者	521	496	852	667	47	3	1	8
受 験 者	520	491	659	663	47	3	1	8
合 格 者	173	199	180	237	13	0	0	8
入 学 者	83	89	83	44	3	0	0	8

■ 平成25年度入試概要

入 試 種 別	公 募 制 推 薦 入 試 (S方式)	一 般 入 試 I (F方式)	一 般 入 試 II (G方式)
募 集 人 員	80名	70名	80名
出 願 開 始 日	平成24年11月 1日(木)	平成25年 1月 8日(火)	平成25年 1月 8日(火)
出 願 締 切 日	平成24年11月 6日(火) 消印有効	平成25年 1月25日(金) 消印有効 平成25年 1月28日(月)のみ 持参可	平成25年 2月 4日(月) 消印有効 平成25年 2月 5日(火)のみ 持参可
入 学 試 験 日	平成24年11月10日(土)	平成25年 2月 1日(金)	平成25年 2月 9日(土)
合 格 発 表 日	平成24年11月17日(土)	平成25年 2月 7日(木)	平成25年 2月16日(土)
選 考 内 容 (時 間・配 点)	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値各25点、数学、全体の評定平均値各50点) 適性確認 [理科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[理科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値各25点、全体の評定平均値75点)	[理科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)

■ 平成24年度 進学説明会

開催日：平成24年6月8日(金)
 場所：ホテルグランヴィア大阪
 参加校：50校
 参加者数：51名
 プログラム：

- 第一部 平成25年度入学試験
- 第二部 キャリアサポートについて
 ～進路・就職指導支援～



進学説明会で挨拶する藤田学長
 (平成24年6月8日(金))



入試やキャリアサポートの説明
 (ホテルグランヴィア大阪)

■ 大阪薬科大学大学院入学試験結果

薬科学専攻 博士前期課程

入試種別	一般入試(一次)	一般入試(二次)
募集人員	20	若干名
志願者	14	1
受験者	14	1
合格者	14	1
入学者	5	1

薬科学専攻 博士後期課程

入試種別	内部進学	一般
募集人員	5	
志願者	7	1
受験者	7	1
合格者	7	1
入学者	7	1

薬学専攻 博士課程

入試種別	一般
募集人員	3
志願者	2
受験者	2
合格者	2
入学者	2

センター試験利用入試 (C方式)	後期センター試験利用入試 (M方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試験 (H方式)
20名	10名	若干名	若干名
平成25年1月8日(火)	平成25年2月20日(水)	平成24年10月25日(木)	平成24年11月12日(月)
平成25年1月18日(金)消印有効	平成25年3月1日(金)消印有効 平成25年3月4日(月)のみ 持参可	平成24年10月31日(水)消印有効	平成24年11月19日(月)消印有効
		平成24年11月10日(土)	平成24年12月1日(土)
平成25年2月16日(土)	平成25年3月9日(土)	平成24年11月17日(土)	平成24年12月11日(火)
センター試験利用科目 [理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち第1解答科目の得点を 2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)とリスニ ング(50点満点)の合計得点を 200点満点に換算する [数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施 しない	センター試験利用科目 [理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ から2科目を選択する [外国語] 200点 英語(リスニング除く)、 ドイツ語、フランス語、中国語 から1科目を選択する [数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施 しない [調査書] 200点 (全体の評定平均値を200点に 換算する)	適性確認 [理科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [面接] 学習意欲、日本語能力 を確認する 薬学を修める上で必要な分野 を試問する	[英語] 45分 50点 [数学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点 [面接]

図書課

①「蔵書検索」の携帯電話対応について

これまで学外からの「蔵書検索」はパソコンからのみ可能でしたが、平成24年6月1日より携帯電話からでも検索できるようになりました。

検索の方法は、「携帯電話対応ホームページ」→「図書館」をクリックすると、資料検索や貸出予約等ができます。通学途上などパソコンのない場所でも「蔵書検索」ができ、便利になりましたので大いに利用してください。

- ・資料検索 キーワード検索、全文検索、タイトル全文検索、新着図書検索
- ・貸出予約 利用者認証のため、ログイン名とパスワードが必要です。

2012年7月の開館日程							2012年8月の開館日程						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30	31	

- 平日(月曜日～金曜日) 9:00～20:00
- 平日(月曜日～金曜日) 9:00～17:00
- 土曜日(試験期間中) 10:00～18:00
- 土曜日(試験期間以外) 10:00～16:30
- 休館日

■ 図書館の開館・休館スケジュールはホームページで確認してください。

②「新着図書・DVDコーナー」のリニューアルについて

平成22年5月より、毎月入荷している単行本・新書・文庫・視聴覚資料から主なものを「新着資料情報」として各年次の掲示板などで案内しています(次ページ表参照)。このたび、図書館3階の「新着図書・DVDコーナー」をリニューアルし、同コーナーに資料番

号順に新着資料を配架した結果、閲覧希望の図書等がさがしやすくなりました(写真下)。

貸出中のときは貸出予約もできますので受付カウンターに申し込んでください。

リニューアルされた「新着図書・DVDコーナー」。向かって右側が専門図書、左側が教養図書。それぞれ次ページの表の番号順に並んでいます。



③寄贈図書について

故矢内原千鶴子 前理事長 所蔵の学術図書(112冊)の寄贈がありました(平成23年12月15日)。

教育研究に有効利用してください。

(主な図書)

1. 一片の生 ある病院長の病床講義
2. 科学技術で日本を創る
3. 患者見殺し 医療改革のペテン
4. がん診療の最前線
5. こころ・いのち・人間
6. 実践処方例とその解説
7. 新薬はこうして生まれる
8. 生命をあやつるホルモン
9. ドラッグストアQ&A
10. 病院薬局研修ガイドブック

新着資料情報 (平成24(2012)年5月)

区分	タイトル	著者
専門図書 ①	薬学用語辞典	日本薬学会
// ②	有機医薬分子論 ー化学構造、薬理活性そして創薬へー	周東 智
// ③	日経サイエンスで鍛える科学英語	日経サイエンス編集部
// ④	学生・研究者のための学会ポスターのデザイン術 ーポスター発表を成功に導くプレゼン手法ー	宮野 公樹
// ⑤	語呂ごろ薬学 ー薬剤師国家試験に役立つゴロ合わせ集ー	谷口 徳恭
// ⑥	研究室で役立つ有機化学反応の実験テクニック ー実験の基本から不活性ガス下での反応操作までー	J. Leonard
// ⑦	医療・薬学系のための基礎化学	津田 孝雄
// ⑧	科学嫌いが日本を滅ぼす 「ネイチャー」「サイエンス」に何を学ぶか	竹内 薫
// ⑨	医療を経済する	長谷川 敏彦
// ⑩	諸外国の薬剤給付制度と動向	中村 健
// ⑪	リサーチ・クエスチョンの作り方 ー診療上の疑問を研究可能な形にー	福原 俊一
// ⑫	理系のためのクラウド知的生産術 ーメール処理から論文執筆までー	堀 正岳
// ⑬	薬学へのいざない	鎌滝 哲也
// ⑭	第1種放射線取扱主任者試験問題集 2012年版	通商産業研究社
// ⑮	放射線概論 ー第1種放射線試験受験用テキストー	柴田 徳思
教養図書 ①	舟を編む	三浦 しをん
// ②	日本人の底力 (東日本大震災1年の全記録)	産経出版社
// ③	世界を変えた10冊の本	池上 彰
// ④	これからのリーダーに贈る17の言葉	佐々木 常夫
// ⑤	プロメテウスの罫 ー明かされなかつた福島原発事故の真実ー	朝日新聞特別報道部
// ⑥	日本を、信じる	瀬戸内 寂聴/ドナルド・キーン
// ⑦	死ぬまで仕事に困らないために20代で出逢っておきたい100の言葉	千田 琢哉
// ⑧	夢をかなえる脳 ー何歳からでも始められる脳力向上トレーニングー	澤口 俊之
// ⑨	TOEIC テストこれだけ直前1ヶ月600点クリア	鹿野 晴夫
// ⑩	プレステップ就活学	平田 潤
// ⑪	大学生のための基礎力養成ブック	小棹 理子
// ⑫	「折れない心」をつくるたった一つの習慣	植西 聡
// ⑬	聞く力 ー心をひらく35のヒントー	阿川 佐和子
// ⑭	歪笑小説	東野 圭吾
// ⑮	とんび	重松 清

教務課

学位授与

[博士 (課程)]

博士 (薬学) 男子0名 女子1名 合計1名

博第22号 博士 (薬学) 浦嶋 庸子 (臨床薬学)
Mitiglinide の体内動態変化が血糖降下作用に及ぼす
影響とその要因に関する検討
(平成24年3月26日付)

[修士]

修士 (薬科学) 男子8名 女子6名 合計14名

薬学研究科薬科学専攻 14名 (男子8名、女子6名)
(平成24年3月17日付)

[学士]

学士 (薬学) 男子82名 女子141名 合計223名

薬学科 221名 (男子81名、女子140名)

薬学科 (4年制) 1名 (男子1名、女子0名)

生命薬学科 (4年制) 1名 (男子0名、女子1名)

学士 (薬科学) 男子4名 女子7名 合計11名

薬科学科 11名 (男子4名、女子7名)

(平成24年3月17日付)

浜木綿 *Crinum asiaticum* var. *japonicum*

薬用植物園長 教授 田中 麗子

はまゆう(浜木綿、*Crinum asiaticum* var. *japonicum*) はユリ目、ヒガンバナ科、ハマオモト属の多年草。クロンキスト体系ではユリ科。熱帯アジア原産。日本に自生するのは亜種 *C. asiaticum* var. *japonicum* (Baker)。日本では三浦半島・房総半島南部以南で自生している。開花時期は、7月～9月末頃。オシベは赤く花弁は細く長く花径 8cm程度。寒さには弱い。夏の到来を告げる花で、青い空と海が白い花によく似合う。浜辺に生え、名の由来は白色の花を「木綿」に見立てたことからである。別名は葉が万年青に似ているから「浜万年青」(はまおもと)。木綿(ゆう)はコウゾの樹皮からとった白い繊維のことで、花の形が似ている。宮崎県の県花であり、横須賀市、三浦市、沼津市、新宮市、下関市、室戸市、等の市の花に指定されている。同属のインドはまゆうは寒さに強く白百合に似た花をつける。

水はけが良く日あたりの良い場所を好み、主に温暖な海浜で見られる(海浜植物)。道ばたや公園、庭に植えられることもある。緑の大きな葉の間から花茎がのびて先端の花苞が割れて咲き始める。実におもしろい咲きかたをする。夏の花の中では珍しく汗を感じさせない清涼な花を開く。葉は光沢があり幅が広く厚みもある。南国らしい緑濃い大きな葉の間に立ち上がってくるはまゆうの茎はたくましく蕾もずいぶん大きい。花は太い花茎の先に散形花序につける(飛び跳ねるような蕊も綺麗)。リボンのような白い花弁は外側に反り返る。花期は夏で、葉の間の真ん中から太くてまっすぐな茎を上へ伸ばし、先端に多数の花を散形につける。白い細長い6枚の花被を持ち、花弁の根本の方は互いに接して筒状、先端部はバラバラに反り返る。実の形もユニーク。趣きがある。草は太い円柱状の幹のようなものの上から昆布のような葉が周囲に広がる態を成す。鱗茎はヒガンバナやタマネギとほぼ相同なものである。ヒガンバナ科の中でもヒガンバナ属(*Lycoris*)に縁が近く、ヒガンバナと同じリコリン(Lycorine)というアルカロイドを、特に偽茎に多く含む。リコリンには催吐作用があるが、多量に摂取すると死に至る。クリナミン(Crinamine)という同種のアルカロイドも多く含まれる。種には面白い性質があり、海の水の中では浮くが、真水ではあっという間に水



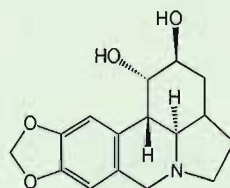
を吸ってそこに定着し根をおろす。種が海に流されて世界中に広まったといわれる。植えなくても土の上に落ちただけでも芽を出す。非常に丈夫な花。はまゆうの花を眺めていると、海辺に打ち寄せる波の音が聞こえてくるようだと語った文人がいるが、その花言葉も「どこか遠くへ」である。

はまゆうの分布北限は黒潮の影響を受けて南方から侵入する生物の典型的な分布域とも考えられ、ほぼ同様の分布を示す生物がいくつもあげられる。このことから、小清水卓二は1930年にこれを一つの分布境界線と見なし、ハマオモト線と呼んだ。この線の西端は敦賀湾、東端は千葉県の銚子となり、年平均気温の等温線を描くと14℃の線とほぼ一致する。ほぼ同等のものに本州南岸線というものもある。

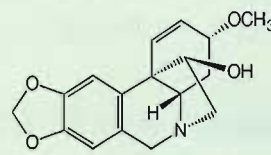
「み熊野の 浦の浜木綿 ^{ももえ} 百重なす
心は思へど ^{ただ} 直に逢はぬかも」

柿本人麻呂

夏になると馴染みの花だけど万葉集に浜木綿の花を詠んだのはこの一首のみである。要約は、“黒潮の打ち寄せる熊野の灘に幾重にも浜木綿の緑の葉が重なっているように、心ではこんなにも思っているあなたにじかに逢えなくて心苦しいことよ”。



Lycorine



Crinamine